

バーコードハンディターミナル

BT-600シリーズ

システムメニュー 操作マニュアル


お使いになる前に、このマニュアルをお読みください。
お読みになった後は、いつでも使用できるように大切に
保管してください。



はじめに

本マニュアルは、《バーコードハンディターミナル BT-600》(以後BT-600)、《バーコードハンディターミナル(Bluetooth搭載) BT-600B》(以後BT-600B)のシステムメニューの操作方法について説明しています。

BT-600 シリーズで使用する端末アプリケーションを開発する場合には、このマニュアルをよくお読みいただき、十分に理解した上でご使用ください。

BT-600シリーズのハードウェアに関する説明については、『ユーザーズマニュアル』を参照してください。

■BT-600シリーズ関連マニュアル

BT-600シリーズのご使用時は、次のマニュアルを合わせてお読みください。

各マニュアルは、以下のWEBページからダウンロードできます。

<http://www.keyence.co.jp/bt600man/>

●CD-ROMに収録




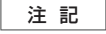
マニュアルの種類	マニュアルの内容	BT-H10W	BT-HD10
ユーザーズマニュアル	BT-600シリーズの使用上の注意、各部の名称、充電方法、USBドライバのインストール方法、仕様などについて説明しています。	○	○

●当社WEBページからダウンロード


マニュアルの種類	マニュアルの内容	BT-600/600B	
		BT-H10W	BT-HD10
BT-Navigator アプリケーション 開発マニュアル	BTアプリケーションビルダを使った端末アプリケーション開発手順、操作方法、シミュレーション方法について説明しています。	○	—
システムメニュー 操作マニュアル	本マニュアルです。 BT-600シリーズのシステムメニューの操作方法について説明しています。	○	○
データ転送ソフト 操作マニュアル	データ転送ソフトの操作方法について説明しています。	○	○
スクリプトリファレンス	BT-600シリーズ用のスクリプト言語について説明しています。	○	—
BT-HD10 アプリケーション 開発マニュアル	C言語によるアプリケーションの開発手順について説明しています。	—	○
端末ライブラリ リファレンス	BT-600シリーズの端末アプリケーションを開発するために必要なライブラリの関数について説明しています。	—	○
通信ライブラリ リファレンス	BT-600シリーズとサーバPC間でファイルを送受信するアプリケーション開発で使用するライブラリの関数について説明しています。 通信ライブラリは、DLL、ActiveX、.NET用ライブラリの3種類を用意しています。	○	○
BT-MD1 ユーザーズマニュアル	BT専用アナログモデムBT-MD1の使用上の注意、使用方法、接続方法について説明しています。	○	○
BTアプリケーション デバッグ操作マニュアル	スクリプト言語、C言語両方に対応したデバグであるBTアプリケーションデバグを使った開発方法、デバグ方法を説明しています。	○	○


■記号の見方


本マニュアルでは、次のような記号を用いて重要な部分がひとめでわかるようにしています。必ずお読みください。

 危険	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、結果的に死亡又は重傷を引き起こす危害が発生します。
 警告	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、結果的に死亡又は重傷を引き起こす危害が発生する可能性があります。
 注意	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、中程度の傷害又は軽傷を引き起こす危害が発生する可能性があります。
 注記	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、商品自体の損害（自損）のみならず、他の財物に対する損傷を引き起こす可能性があります。

 重要 かならずおこなう操作などについての注意を示しています。

 ポイント 誤りやすい操作などについての注意を示しています。

 参考 本文の理解を深める事項や、知っておくと役に立つ情報を示しています。

 関連する情報が記載されているページやマニュアルを示しています。

■ご注意

- 本マニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本マニュアルに記載されている情報は、予告なく変更される場合があります。
- Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、および製品名は、それぞれ、各社の登録商標、または商標です。

安全にお使いいただくために

■一般的な注意事項

警告

- 人体、および人体の一部を保護する目的でこの商品を使用してはいけません。
- この商品は、防爆エリアで使用することを想定していない商品ですので、防爆エリアでは決して使用しないでください。

注意

機器が万一故障した場合、各種の損害を防止するための十分な安全対策を施してください。

注 記

- 仕様に示された規格以外でのご使用、または改造された製品については、機能および性能の保証はできかねますのでご留意ください。
- 機器を組み合わせてご使用になる場合、使用条件、環境などにより、機能および性能を十分に発揮できない場合がありますので、よくご検討のうえ、ご使用ください。

マニュアルの読みかた

このマニュアルで使用されている用語や記号について説明します。

■用語について

用語	説明
BT-600	《バーコードハンディターミナル BT-600》を示します。
BT-600B	《バーコードハンディターミナル BT-600B》を示します。 Bluetoothを搭載したタイプです。
BT-UC6U	USB通信ユニットを示します。
BT-UC6L	LAN通信ユニットを示します。
BT-UC6R	RS232C通信ユニットを示します。
BT-H10W	BT-600シリーズ用ミドルウェアパッケージ「BT-Navigator」です。 「アプリケーションビルダ」など、BT-600シリーズを使用したアプリケーション 開発用ソフトウェアを収録しています。
BT-HD10	C言語アプリケーション開発キットです。 C言語統合開発環境（GAIOフレームワーク）や開発に必要なライブラリ（端末アプ リケーション開発用、PCアプリケーション開発用）や、その他開発に使用するソフ トウェアを収録しています。
端末アプリケーション	BT-600シリーズ上で動作するアプリケーションです。
PCアプリケーション	パソコン上で動作するアプリケーションです。ユーザで作成する必要があります。
データ転送ソフト	BT-600シリーズとパソコン間でファイルを送受信するためのソフトウェアです。 通信方法は、通信ユニットをサポートしています。
マスタファイル	BT-600シリーズで入力したデータを照合したり、他の文字に置き換えたりするた めに使用するデータファイルです。
ログファイル	BT-600シリーズで収集したデータです。
Flash-ROM	自由に読み出し、書き込みが可能で、充電電池/副電池の残量がなくなってもデータが 残るメモリです。マスタファイル、ログファイルなどの重要なファイルはFlash- ROMに保存してください。
RAM	自由に読み出し、書き込みが可能ですが、充電電池/副電池の残量がなくなるとデータ が消えてしまうメモリです。端末アプリケーションのワークエリアや、一時ファイ ルの保存先などに使用されます。

■記号について

このマニュアルでは、次のような記号を使ってメニューやボタンなどを表しています。

記 号	説 明
【 】	画面上のメニュー名です。
[]	ウィンドウ、ダイアログボックス、タブ、およびこれらの画面上の項目名です。
[]	ダイアログボックスなどのボタン名です。
「 」	画面上のメッセージまたは本書内の参照先タイトル、および強調の意味を示しています。
『 』	参照先が関連マニュアルの場合のマニュアル名を示します。

MEMO

本マニュアルの構成

1	システム設定	BT-600シリーズの本体システム設定、日付/時刻、便利機能設定、管理者用設定などの設定方法を説明します。
2	通信設定	ネットワークや、Bluetooth、ダイヤルアップなどの設定方法を説明します。LAN通信ユニットのネットワーク設定をおこなう方法についても説明します。
3	ファイル操作	BT-600シリーズ内のファイルの操作方法を説明します。
4	通信待ち受け	「データ転送ソフト」や「BTアプリケーションビルダ」を使用してパソコンから送信したファイルをBT-600シリーズで受信する方法について説明します。
5	プログラム実行	端末アプリケーションの実行方法を説明します。
6	クローン作成	あるBT-600シリーズと同じシステム設定、同じファイル構成のBT-600シリーズ(クローン)を作成する方法を説明します。
7	動作テスト	BT-600シリーズの各部の動作テストをおこなう方法について説明します。
8	読み取りテスト	読み取ったバーコードの種別、桁数、内容を表示し、読み取りテストする方法について説明します。
	付録	著作権表示と、索引を記載しています。

目 次

はじめに	
安全にお使いいただくために	ii
マニュアルの読みかた	iii
本マニュアルの構成	v
目 次	vi

システムメニュー

システムメニューツリー	2
システムメニューの操作方法	5
システムメニュー一覧	7
1 システム設定	10
デバイス設定	10
バージョン表示	17
便利機能	18
設定保存	42
言語切替	45
管理者設定	46
2 通信設定	52
ネットワーク	52
Bluetooth	56
ダイヤルアップ	62
モデム	68
LAN通信ユニット	75
3 ファイル操作	88
ファイル操作メニューの操作について	88
メニューの操作	90
4 通信待ち受け	103
通信待ち受け	103
5 プログラム実行	105
プログラム実行	105
6 クローン作成	106
クローン作成	106
7 動作テスト	109
通信テスト	109
接続確認	111
LCD	118
LED	118
ブザー	119
パイプレータ	119
バックライト	120
キー	120
メモリテスト	121
8 読み取りテスト	122
9 BT-500 メニュー表示	123

付録

1 索引	付-2
------	-----

システムメニュー

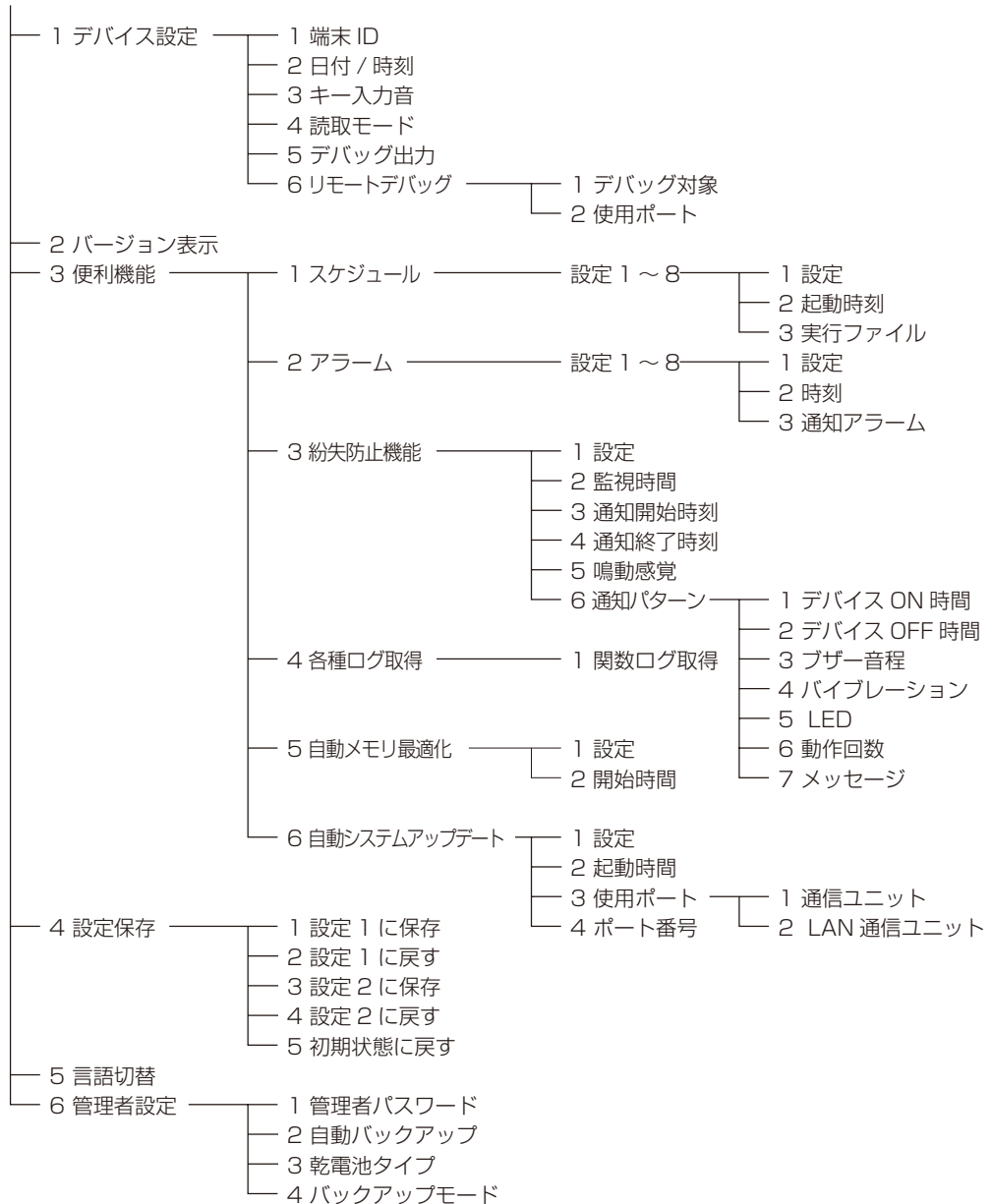
システムメニューについて説明します。

1 システム設定	10
2 通信設定	52
3 ファイル操作	88
4 通信待ち受け	103
5 プログラム実行	105
6 クローン作成	106
7 動作テスト	109
8 読み取りテスト	122
9 BT-500メニュー表示	123

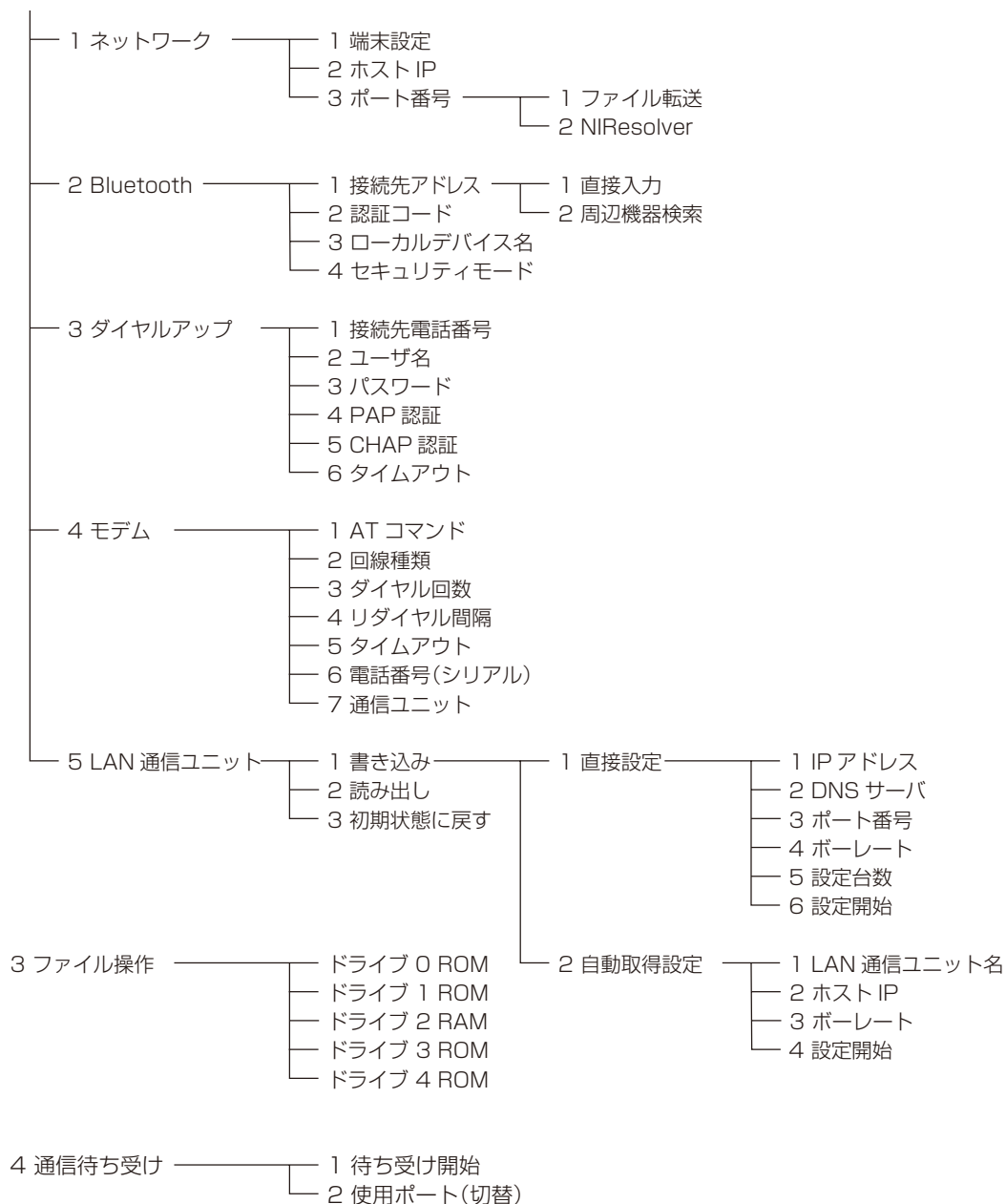
システムメニューツリー

BT-600シリーズのシステムメニューについて説明します。

1 システム設定



2 通信設定



5 プログラム実行

6 クローン作成

- 1 端末データ出力
- 2 端末データ読み込み

7 動作テスト

- 1 通信テスト
 - 1 Ping
 - 1 Ping 開始
 - 2 IP アドレス
 - 3 使用ポート
 - 2 接続確認
 - 1 開始
 - 2 使用ポート(切替)
- 2 LCD
- 3 LED
- 4 ブザー
- 5 バイブレータ
- 6 バックライト
- 7 キー
- 8 メモリテスト

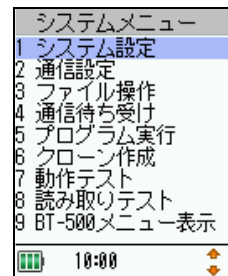
8 読み取りテスト

9 BT-500 メニュー表示

システムメニューの操作方法

参考 ここでは、BT-600シリーズの画面を使って操作を説明しています。

- BT-600シリーズの電源がOFFであることを確認します。
電源がONの場合は、**(PW)**キーを押してBT-600シリーズの電源をOFFにします。
- (L)**キーと**(2)**キーを押しながら、**(PW)**キーを押します。
システムメニューが起動します。



ポイント

管理者パスワードが有効になっている場合には、右の画面が表示されます。

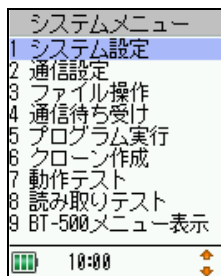
正しいパスワードを入力し、**(ENT)**キーを押すとシステムメニューが表示されます。

□「管理者パスワード」(46ページ)

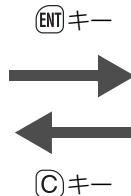
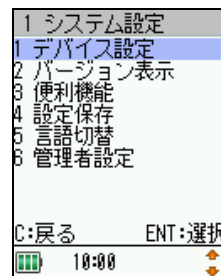


- メニューを選択します。
(C)キーでメニューを選択し、**(ENT)**キーを押して決定します。
【1 システム設定】～【9 BT-500メニュー表示】までの上位の階層を選択した後、下位の階層を選択します。
上位の階層へ戻るときは、**(C)**キーを押します。

上位の階層メニュー

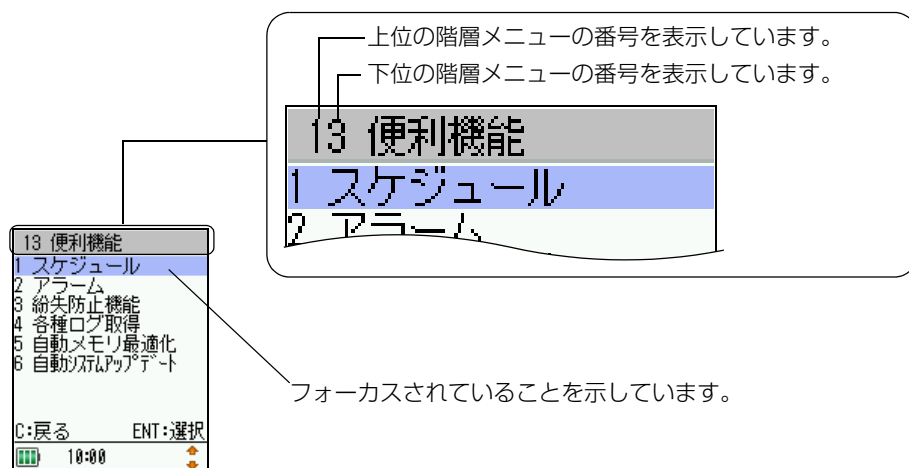


下位の階層メニュー



4 設定を確認するときは **ENT** キーを押します。

参考 画面の上部、下部には次の情報が表示されます。



5 システムメニューを終了するときは、BT-600シリーズの電源をOFFにします。

システムメニュー一覧

■システム設定

BT-600シリーズの本体設定、動作チェックなどをおこないます。

項 目	説 明	参照 ページ
1 デバイス設定	BT-600シリーズの端末IDや日付/時刻、キー入力音、読取余裕度、デバッグ出力を設定します。	10
1 端末ID	本体を識別するための端末IDを設定します。(初期設定:00000)	10
2 日付/時刻	日付、時刻を設定します。(初期設定:1980/01/01、00:00:00)	11
3 キー入力音	キー入力時の音量を設定します。(初期設定:大)	12
4 読取モード	バーコードの読取モードを設定します。(初期設定:通常)	13
5 デバッグ出力	デバッグ出力の許可/禁止を設定します。(初期設定:禁止)	14
6 リモートデバッグ	BTアプリケーションデバッグを使用して、リモートデバッグをする場合のデバッグ対象言語、使用ポートを設定します。	15
1 デバッグ対象	デバッグ対象の言語を「無効」「スクリプト」「C言語」から選択します。	15
2 使用ポート	BTアプリケーションデバッグと通信するポートを選択します。	16
2 バージョン表示	本体システムおよびシステムメニューのバージョンを表示します。	17
3 便利機能	スケジュール、アラーム、紛失防止機能、各種ログ取得、自動メモリ最適化を設定する場合に使用します。	18
1 スケジュール	指定した時刻に指定した端末アプリケーションを実行します。	18
2 アラーム	指定した時刻に指定したパターンのブザー・バイブレーション・メッセージボックス表示を、指定した回数だけ実行します。	26
3 紛失防止機能	長時間操作がなかったり、充電されず放置されている場合に、指定したパターンのアラーム動作を実行します。	31
4 各種ログ取得	蓄積されている関数ログをファイル保存します。	36
5 自動メモリ最適化	指定した時刻にドライブ0、1、3の最適化を自動的に実行します。	37
6 自動システムアップデート	ファームウェア(本体システム)を自動的にバージョンアップします。	39
4 設定保存	自動保存されている設定とは別に、設定を保存したい場合に使用します。(設定1または設定2)	42
5 言語切り替え	表示言語を切り替えます。(初期設定:日本語)	45
6 管理者設定	管理者パスワード、動作速度、バックアップモード、バックアップ時間が設定できます。	46
1 管理者パスワード	管理者パスワードを設定します。(初期設定:無効)	46
2 自動バックアップ	BT-600シリーズの自動バックアップ機能の有効/無効を切り換えます。(初期設定:無効)	48
3 乾電池タイプ	乾電池パックBT-B65使用時の乾電池の種類を選択します。(初期設定:アルカリ)	50
4 バックアップモード	バックアップモード「省電」を使用すると、電源OFF時にRAM内データを保持しないため、電池の消費が少なくなり、電池が長持ちします(日付と時刻は保持されます)。(初期設定:通常)	50

■通信設定

BT-600シリーズのネットワークや、Bluetooth、ダイヤルアップなどを設定します。

項 目	説 明	参照 ページ
1 ネットワーク	ネットワークの通信設定をおこないます。	52
1 端末設定	DHCPを使用する場合の端末名を設定します。	52
2 ホストIP	BT-600シリーズと通信するホスト(サーバ)PCのIPアドレスを設定します。 (初期設定:0.0.0.0)	53
3 ポート番号	ポート番号の設定をおこないます。	54
2 Bluetooth	Bluetoothの通信設定をおこないます。	56
1 接続先機器アドレス	接続先機器のアドレスを設定します。(初期設定:000000000000)	56
2 認証コード	認証コードの設定をおこないます。(初期設定:3500)	59
3 ローカルデバイス名	ローカルデバイス名の設定をおこないます。(初期設定:HT)	60
4 セキュリティモード	セキュリティモードの設定をおこないます。(初期設定:なし)	61
3 ダイヤルアップ	専用アナログモデムBT-MD1またはBluetooth搭載携帯電話を使ったダイヤルアップ通信の設定をおこないます。	62
1 接続先電話番号	接続先の電話番号を設定します。(初期設定:0)	62
2 ユーザ名	ダイヤルアップ用のユーザ名を設定します。(初期設定:空設定)	63
3 パスワード	ダイヤルアップ用のパスワードを設定します。(初期設定:0バイト設定済)	64
4 PAP認証	PAP認証の有効/無効を設定します。(初期設定:有効)	65
5 CHAP認証	CHAP認証の有効/無効を設定します。(初期設定:有効)	66
6 タイムアウト	接続試行タイムアウト時間を設定します。(初期設定:30秒)	67
4 モデム	専用アナログモデムBT-MD1との通信設定をおこないます。	68
1 ATコマンド	専用アナログモデムへダイヤルする前に、初期化用ATコマンドが必要な場合に設定します。 (初期設定:未設定)	68
2 回線種類	モデムで使用する回線の種類を設定します。 (初期設定:トーン回線)	69
3 リダイヤル回数	リダイヤルの回数を設定します。(初期設定:1回)	70
4 リダイヤル間隔	リダイヤルの間隔を設定します。(初期設定:5秒)	71
5 タイムアウト	モデムのタイムアウト時間を設定します。(初期設定:50秒)	72
6 電話番号(シリアル)	専用アナログモデムBT-MD1を使用し、「シリアル接続」する場合の接続先の電話番号を設定します。 (初期設定:0)	73
7 通信ユニット	RS-232C通信ユニットBT-UC6R経由で専用アナログモデムBT-MD1と通信する場合の通信速度を設定します。	74
5 LAN通信ユニット	LAN通信ユニットBT-UC6Lのネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイIPアドレス)をおこないます。	76
1 書き込み	ネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレート)をBT-UC6Lに書き込みます。	76
2 読み出し	ネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレート)をBT-UC6Lから読み出します。	84
3 初期設定に戻す	BT-UC6Lのネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレート)を初期状態(工場出荷時の状態)に戻します。	85

■ファイル操作

ファイル操作を選択すると、【ファイル操作メニュー】が起動します。
詳細は、📖「3 ファイル操作」(88ページ)を参照してください。

■通信待ち受け

「データ転送ソフト」や「BT アプリケーションビルダ」を使用してパソコンから送信したファイルを、BT-600シリーズで受信します。通信待ち受けを開始します。
詳細は、📖「4 通信待ち受け」(103ページ)を参照してください。

■プログラム実行

BT-600シリーズに転送された端末アプリケーションを起動します。
詳細は、📖「5 プログラム実行」(105ページ)を参照してください。

■クローン作成

同じ設定、同じファイル構成の端末(クローン)を作成します。

項 目	説 明	参照 ページ
1 端末データ出力	他の端末に設定情報、ファイル情報を送信(出力)します。	106
2 端末データ読み込み	他の端末の設定情報、ファイル情報を受信(読み込み)します。	106

■動作テスト

BT-600シリーズの各部の動作テストをおこないます。

項 目	説 明	参照 ページ
1 通信テスト	BT-600シリーズの通信が正常に機能するかテストします。	109
1 Ping	指定したIPアドレスの機器にPingを送信し、応答を確認します。	109
2 接続確認	使用ポートを指定して、「データ転送ソフト」との接続確認をおこないます。	111
2 LCD	LCDの動作チェックをおこないます。	118
3 LED	LEDの動作チェックをおこないます。	118
4 ブザー	ブザーの動作チェックをおこないます。	119
5 バイブレータ	バイブレータの動作をチェックします。	119
6 バックライト	バックライトの動作をチェックします。	120
7 キー	キーの動作をチェックします。	120
8 メモリテスト	メモリへ正しくアクセスできるかどうかテストします。	121

■読み取りテスト

読み取ったバーコードの種別、桁数、内容を表示し、読み取りテストします。
詳細は、📖「8 読み取りテスト」(122ページ)を参照してください。

■BT-500メニュー表示

BT-500シリーズと同じ構成のシステムメニューを表示します。
BT-600シリーズで新たに追加された機能の設定はできません。

BT-600シリーズの本体システム設定、日付/時刻、便利機能設定、管理者用設定などを設定します。



ポイント

システム設定で変更した内容は、自動的にFlash-ROMに保存されます。

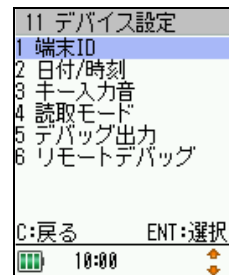
デバイス設定

BT-600シリーズの端末IDや日付/時刻、キー入力音、読取モード、デバッグ出力を設定します。

端末ID

端末を識別するためのIDを設定します。初期状態では「00000」が設定されています。

- 1 ○キーで【1 端末ID】を選択し、(ENT)キーを押します。



- 2 端末IDを設定し、(ENT)キーを押します。

端末IDは、「00001～65534」の範囲で設定できます。

項目	設定範囲
端末ID設定	00001～65534 (初期値:00000)



参考

キー入力の代わりに、バーコードを読み取って設定することもできます。





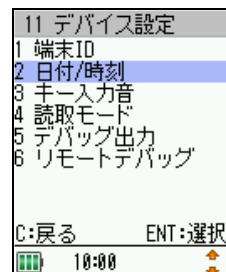
設定した端末IDに変更されます。


(L)キーを押すと、設定を変更しないで【デバイス設定】メニューに戻ります。


日付／時刻

日付、時刻を設定します。

- 1  キーで【2 日付/時刻】を選択し、 キーを押します。



- 2 日付と時刻を入力し、 キーを押します。


 キーで修正する場所にカーソルを移動して、キーを押して数値を入力します。



2月31日のような存在しない日付は、設定できません。



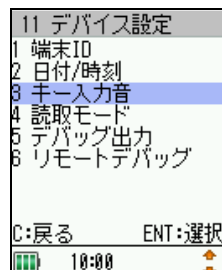
設定した日付、時刻に変更されます。



 キーを押すと、設定を変更しないで【デバイス設定】メニューに戻ります。

キー入力音



BT-600シリーズ本体のキーを押したときの音量を設定します。

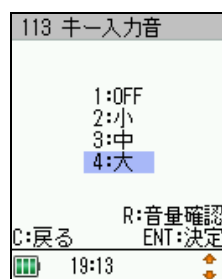
- 1  キーで【3 キー入力音】を選択し、 キーを押します。




- 2  キー(▲▼)で、キー入力音の音量を選択し、 キーを押します。
「OFF/小/中/大」から選択できます。初期状態では「大」が設定されています。

項目	設定範囲
キー入力音設定	OFF/小/中/大 (初期値:大)

 **参考**  を押すと、キー入力音の音量確認ができます。





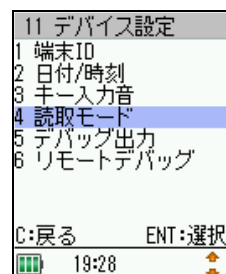
設定したキー入力音量に変更されます。



 キーを押すと、設定を変更しないで【デバイス設定】メニューに戻ります。

読取モード

バーコードの読み取り余裕度を設定します。

- 1  キーで[4 読取モード]を選択し、 キーを押します。



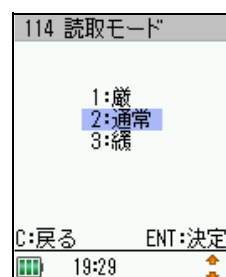
- 2  キー(▲▼)で、読取モードを選択し、 キーを押します。

「厳/通常/緩」から選択できます。初期状態では「通常」が設定されています。通常は変更しないでください。


項目	設定範囲
読取モード	厳/通常/緩 (初期値:通常)

ポイント

読取モードを緩くすると、バーコードの仕様に対して、印字誤差が大きいバーコードでも読み取りできるようになります。その場合、コード種別限定、桁数範囲限定などでの誤読対策が必要となります。



設定した読取モードに変更されます。

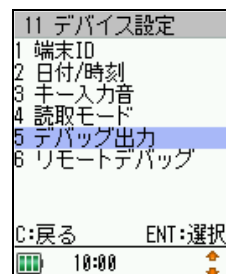
 キーを押すと、設定を変更しないで[デバイス設定]メニューに戻ります。

デバッグ出力

端末アプリケーションを開発するときに、通信ユニットを使用してデバッグ情報を出力できます。詳細については、 『スクリプトファレンス』『端末ライブラリリファレンス』を参照してください。

参考 スクリプトでは、Handy:Debugin、Handy:Debugout、C言語では、btDebugInput、btDebugPrintを使用します。

- 1 キーで[5 デバッグ出力]を選択し、 キーを押します。

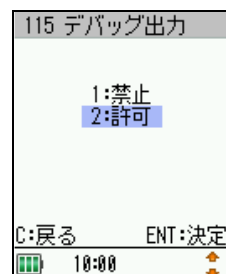


- 2 通信ユニット(BT-UC6R/BT-UC6U)からのデバッグ情報出力の許可、禁止を選択し、 キーを押します。

初期状態では「禁止」が設定されています。

項目	設定範囲
デバッグ出力設定	許可/禁止 (初期値:禁止)

ポイント デバッグ転送を許可する場合、BT-600シリーズの電池の消耗が早くなります。プログラムのデバック時のみ許可設定としてください



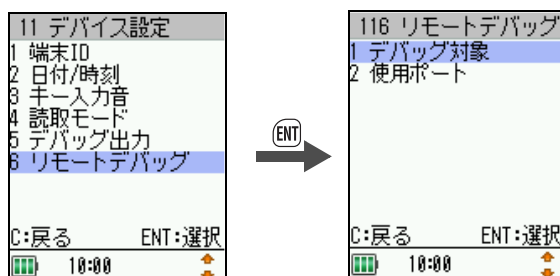
設定した内容に変更されます。

キーを押すと、設定を変更しないで[デバイス設定]メニューに戻ります。

リモートデバッグ

BTアプリケーションデバッガを使用してリモートデバッグをする場合の、デバッグ対象言語、使用ポートを設定します。BTアプリケーションデバッガについては、『BTアプリケーションデバッガ操作マニュアル』を参照してください。

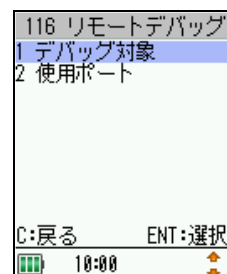
- 1 キーで、[6 リモートデバッグ]を選択し、キーを押します。



■デバッグ対象

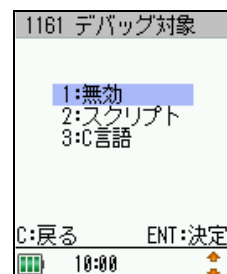
BTアプリケーションデバッガでのデバッグ対象言語を選択します。

- 1 キー(▲▼)で、[1 デバッグ対象]を選択し、キーを押します。



- 2 キー(▲▼)で、デバッグ対象言語を選択し、キーを押します。

項目	設定範囲
デバッグ対象設定	無効/スクリプト/C言語 (初期値: 無効)





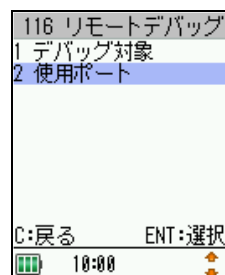
設定したデバッグ対象言語に変更されます。



キーを押すと、設定を変更しないで[リモートデバッグ]メニューに戻ります。

■使用ポート

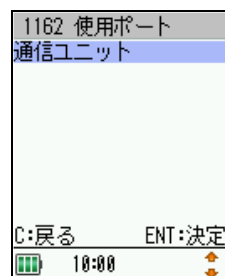
BTアプリケーションデバッガと通信するポートを選択します。

- 1 キー(▲▼)で、[2 使用ポート]を選択し、キーを押します。



- 2 キー(▲▼)で、使用ポートを選択し、キーを押します。

項目	設定範囲
使用ポート設定	通信ユニット



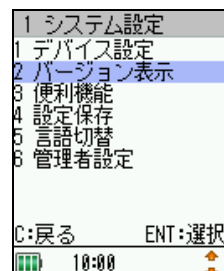
設定した使用ポートに変更されます。

キーを押すと、設定を変更しないで[リモートデバッグ]メニューに戻ります。

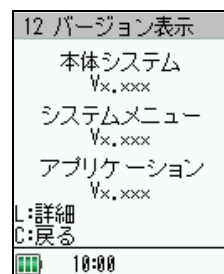
バージョン表示

本体システムおよびシステムメニュー、端末アプリケーションのバージョンを表示します。

- 1 ○キーで[2 バージョン表示]を選択し、(ENT)キーを押します。



- 2 バージョン情報が表示されます。



参考

- アプリケーションのバージョンは、BT アプリケーションビルダで開発した端末アプリケーションでは「システムソフト」のバージョンを表示します。
C言語で開発した端末アプリケーションの場合は、「version.c」に記述したバージョン番号が表示されます。
- (L)キーを押すと、シリアル番号とBDアドレスを表示します。
(ENT)キーを押すと、[バージョン表示]画面に戻ります。



- 3 (C)キーを押します。

[システム設定]メニューに戻ります。

便利機能


スケジュール、アラーム、紛失防止機能、各種ログ取得、自動メモリ最適化を設定する場合に使用します。

スケジュール

指定した時刻に指定した端末アプリケーションを実行します。

最大8件までスケジュールを設定できます。

！ ポイント





- 現在の端末アプリケーションが入力作業中であっても、指定した時刻になると、スケジュール指定した端末アプリケーションが強制起動します。ファイル処理中の場合は、ファイル処理終了後に実行されます。
- スケジュール起動した端末アプリケーションから元の端末アプリケーションに戻す場合は、戻したい端末アプリケーションを別スケジュールとして登録してください。
- 「バックアップモード」を「省電」にして電源OFFした場合、スケジュール機能は動作しません。
 「バックアップモード」(50ページ)

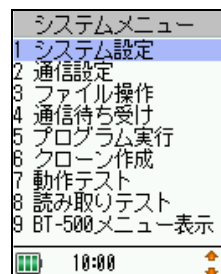
■BTアプリケーションビルダ開発の場合(BT-H10W)

- 1 BTアプリケーションビルダやスクリプトで開発した端末アプリケーション(.sb3)をデータ転送ソフト経由でドライブ1に送信します。

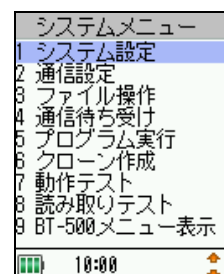
！ ポイント

ファイル名は、「K_Apl.sb3」以外にしてください。

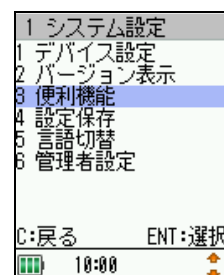
- 2 ドライブ0に、システムソフト(BTNavikapl.xho)をBTアプリケーションビルダまたはデータ転送ソフトで送信(BTNavikapl.appに変換)します。
- 3 BT-600シリーズの電源がOFFであることを確認します。
電源がONの場合は、 キーを押してBT-600シリーズの電源をOFFにします。
- 4  キーと  キーを押しながら、 キーを押します。
システムメニューが起動します。



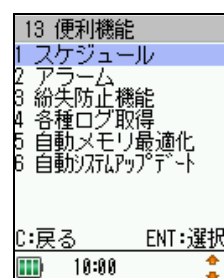
5 【1 システム設定】を選択し、**[ENT]**キーを押します。



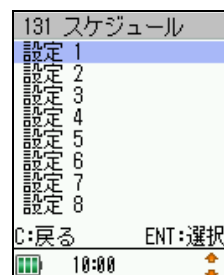
6 【3 便利機能】を選択し、**[ENT]**キーを押します。



7 【1 スケジュール】を選択し、**[ENT]**キーを押します。

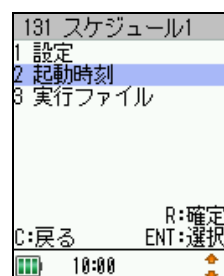


8 スケジュールを設定する番号を選択し、**[ENT]**キーを押します。



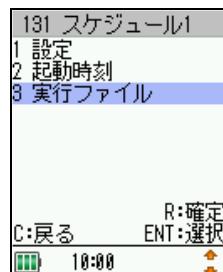
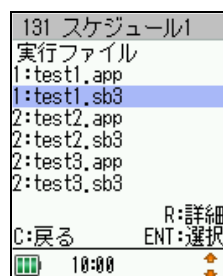
参考 最大8件までスケジュールを設定できます。

9 【2 起動時刻】を選択し、**[ENT]**キーを押します。

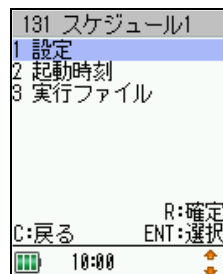


10 時刻を入力し、**(ENT)**キーを押します。

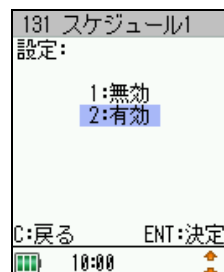
(F10)キーで修正する場所にカーソルを移動して、キーを押して時刻を入力します。

**11** **[3 実行ファイル]**を選択し、**(ENT)**キーを押します。**12** スケジュールを設定する端末アプリケーション(.sb3)を選択し、**(ENT)**キーを押します。

参考 **(R)**キーを押すと、ファイルの詳細情報を表示します。

**13** **[1 設定]**を選択し、**(ENT)**キーを押します。

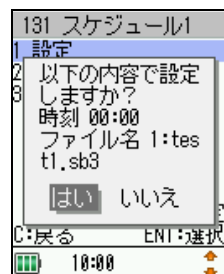
14 [2 有効]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



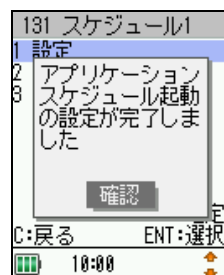
15 **(R)**キーを押します。
確認の画面が表示されます。



16 [はい]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



17 **(ENT)**キーを押します。



18 システムメニューを終了します。

19 指定した時刻になると、電源ON/OFFに関わらず、指定した端末アプリケーション(.sb3)を「K_Apl.sb3」という名前でドライブ 1 にコピーし、リセット起動します。
指定した端末アプリケーションが起動します。

■C言語開発の場合

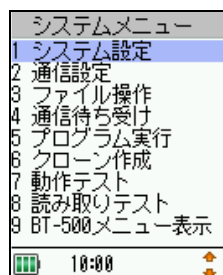
- 1 C言語統合開発環境GAIOフレームワークでコンパイルした実行ファイル(.xho)をデータ転送ソフト経由でドライブ1に送信します。(実行形式の.appに変換されます)

- 2 BT-600シリーズの電源がOFFであることを確認します。

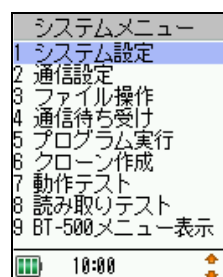
電源がONの場合は、**(PW)**キーを押してBT-600シリーズの電源をOFFにします。

- 3 **(L)**キーと**(2)**キーを押しながら、**(PW)**キーを押します。

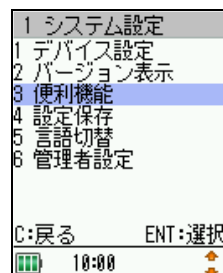
システムメニューが起動します。



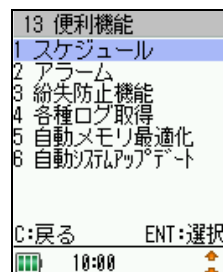
- 4 [1 システム設定]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 5 [3 便利機能]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 6 [1 スケジュール]を選択し、**(ENT)**キーを押します。

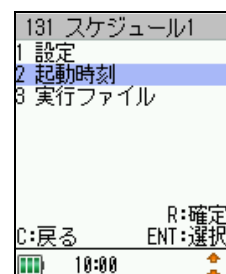


7 スケジュールを設定する番号を選択し、**(ENT)**キーを押します。

参考 最大8件までスケジュールを設定できます。



8 【2 起動時刻】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

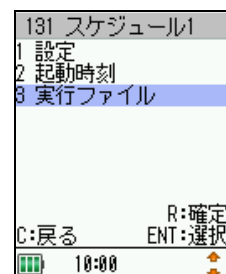


9 時刻を入力し、**(ENT)**キーを押します。

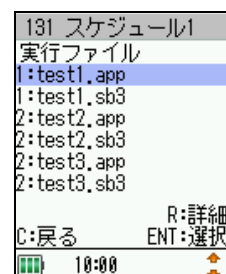
(C)キーで修正する場所にカーソルを移動して、キーを押して時刻を入力します。




10 【3 実行ファイル】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



11 スケジュールを設定する端末アプリケーション(.app)を選択し、**(ENT)**キーを押します。



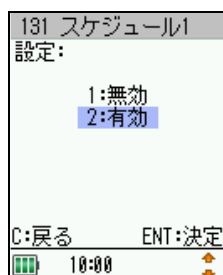
参考  (R)キーを押すと、ファイルの詳細情報を表示します。



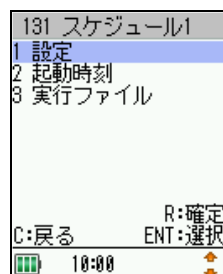
12 [1 設定]を選択し、(ENT)キーを押します。



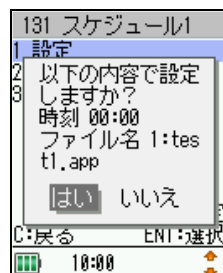
13 [2 有効]を選択し、(ENT)キーを押します。



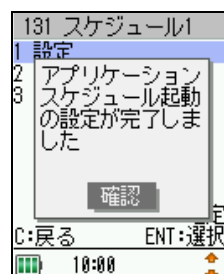
14 (R)キーを押します。
確認の画面が表示されます。



15 [はい]を選択し、(ENT)キーを押します。



16 **ENT** キーを押します。



17 システムメニューを終了します。


18 指定した時刻になると、電源ON/OFFに関わらず、指定した端末アプリケーション(.app)をドライブ0にコピーして、リセット起動します。指定した端末アプリケーションが起動します。

アラーム

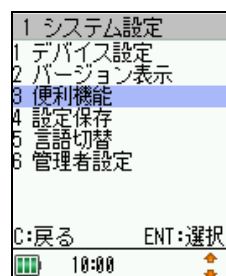
指定した時刻に指定したパターンのブザー・LED・バイブレーション・メッセージボックス表示を、指定した動作時間だけ実行します。

最大8件までアラームを設定できます。

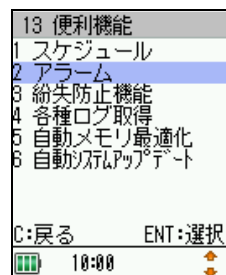
ポイント

- アラームメッセージが表示されている状態で別のアラーム設定は起動しません。
- 「バックアップモード」を「省電」にして電源OFFした場合、アラーム機能は動作しません。
 「バックアップモード」(50ページ)

1 【3 便利機能】を選択し、キーを押します。



2 【2 アラーム】を選択し、キーを押します。



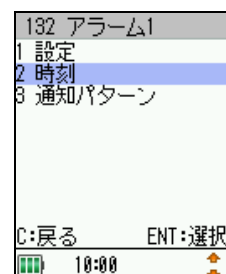
3 アラームを設定する番号を選択し、キーを押します。



参考

最大8件までアラームを設定できます。

4 【2 時刻】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

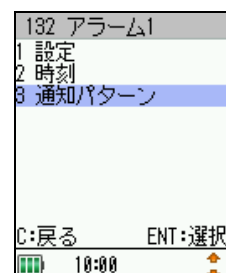


5 時刻を入力し、**(ENT)**キーを押します。

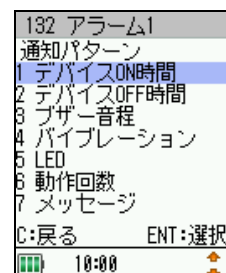
(C)キーで修正する場所にカーソルを移動して、キーを押して時刻を入力します。



6 【3 通知パターン】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

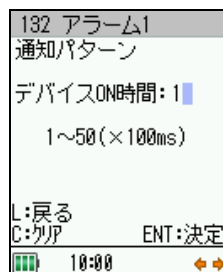


7 通知パターンを選択します。



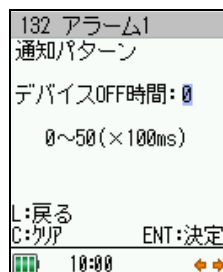
(1) デバイスON時間

デバイス(ブザー、バイブレーション、LED)のON時間を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



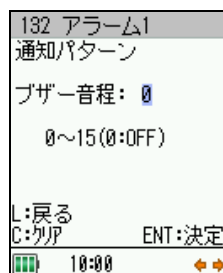
(2) デバイスOFF時間

デバイス(ブザー、バイブレーション、LED)のOFF時間を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(3) ブザー音程

ブザーの音程を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(4) バイブレーション

バイブレーションするかどうかを設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(5) LED

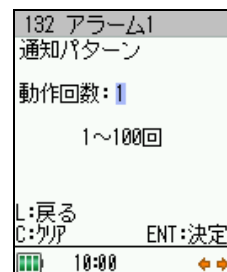
LEDの色を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(6) 動作回数

デバイス(ブザー、パイブレーション、LED)の動作する回数を設定します。

設定後 **(ENT)** キーを押します。

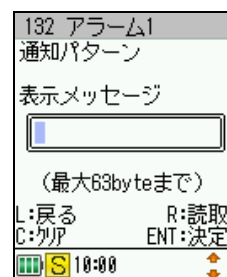


(7) メッセージ

表示するメッセージを設定します。最大63バイトまでのメッセージを設定できます。

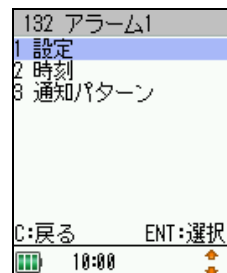
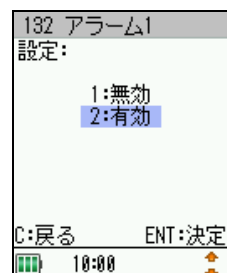
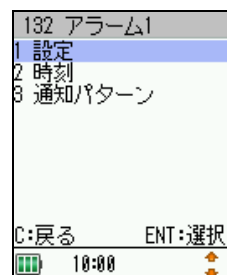
(F3) キーを押すと日本語が入力できます。

設定後 **(ENT)** キーを押します。



参考

- 日本語の入力方法は『ユーザーズマニュアル』「3-1 基本的な操作と機能」を参照してください。
- キー入力の代わりに、バーコードを読み取って設定することもできます。

8 **(C)** キーを押します。9 **[1 設定]** を選択し、**(ENT)** キーを押します。10 **[2 有効]** を選択し、**(ENT)** キーを押します。11 **(C)** キーを押します。

12 **ⓐ**キーを押します。**13** システムメニューを終了します。**14** 指定した時刻になると、電源ON/OFFに関わらず、指定した端末アプリケーション(.app)をドライブ0にコピーして、リセット起動します。指定した端末アプリケーションが起動します。

紛失防止機能

長時間操作がなかったり、充電されず放置されている場合に、指定したパターンのブザー・LED・バイブレーション・メッセージボックス表示を実行します。

BT-600シリーズの紛失防止に役立ちます。

紛失防止機能を利用するには、次の項目を設定してください。

- 監視時間
設定した時間以上放置されると、紛失防止アラームが実行されます。
- 通知開始時刻
放置監視時間の開始時刻を設定します。
- 通知終了時刻
放置監視時間の終了時刻を設定します。
- 鳴動間隔
紛失防止アラーム実行後、再度紛失防止アラームを実行する間隔を設定します。
- 通知パターン
ブザー、バイブレーション、LEDなどの通知パターンを設定します。

！ ポイント

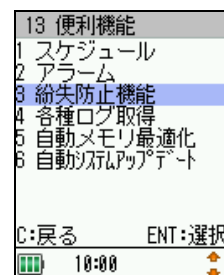
「バックアップモード」を「省電」にして電源OFFした場合、紛失防止機能は動作しません。

📖 「バックアップモード」(50ページ)

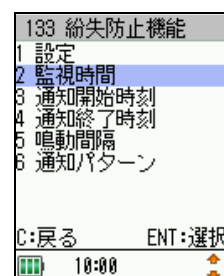
参考

- 次の操作があった場合、監視時間がリセットされます。
 - ・キーが操作された
 - ・通信ユニットの着脱があった
 - ・充電中である
- 紛失防止アラーム実行後は自動的に電源 OFF になります。鳴動間隔で設定した時間が経過すると、再度紛失防止アラームが実行されます。

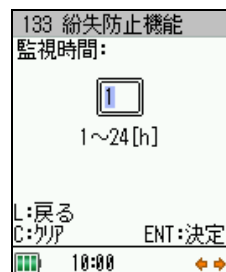
1 【3 紛失防止機能】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



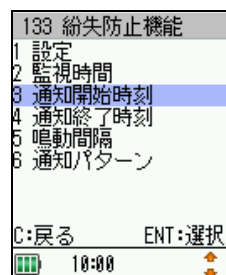
2 【2 監視時間】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



3 監視時間を入力し、**[ENT]**キーを押します。

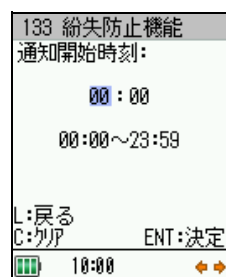


4 【3 通知開始時刻】を選択し、**[ENT]**キーを押します。

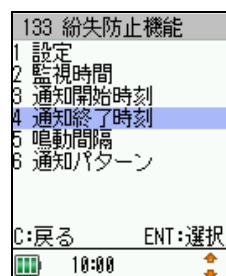


5 通知開始時刻を入力し、**[ENT]**キーを押します。

○キーで修正する場所にカーソルを移動して、キーを押して時刻を入力します。

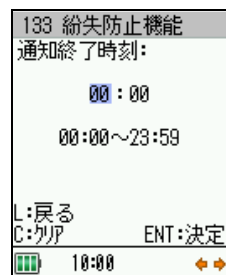


6 【4 通知終了時刻】を選択し、**[ENT]**キーを押します。

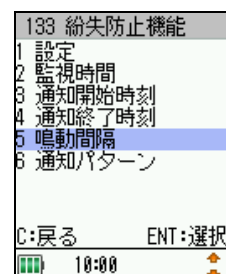


7 通知終了時刻を入力し、**[ENT]**キーを押します。

○キーで修正する場所にカーソルを移動して、キーを押して時刻を入力します。



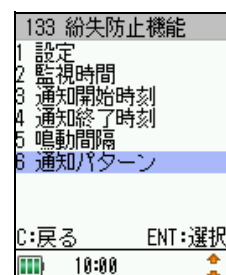
8 【5 鳴動間隔】を選択し、**[ENT]**キーを押します。



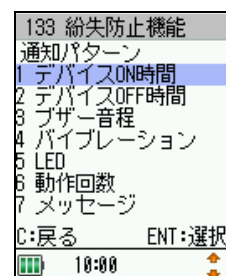
9 鳴動間隔を入力し、**[ENT]**キーを押します。



10 【6 通知パターン】を選択し、**[ENT]**キーを押します。

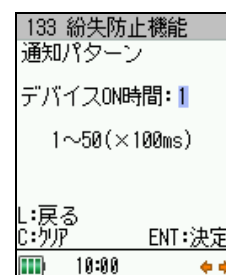


11 通知パターンを選択します。



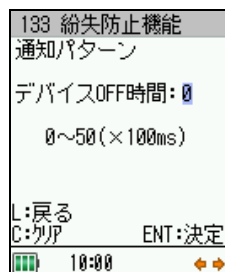
(1) デバイスON時間

デバイス(ブザー、バイブレーション、LED)のON時間を設定します。
設定後**[ENT]**キーを押します。



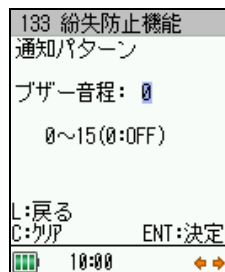
(2) デバイスOFF時間

デバイス(ブザー、バイブレーション、LED)のOFF時間を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(3) ブザー音程

ブザーの音程を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(4) バイブレーション

バイブレーションするかどうかを設定します。
設定後 ENT キーを押します。



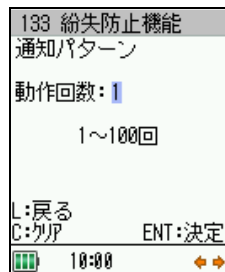
(5) LED

LEDの色を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(6) 動作回数

デバイス(ブザー、バイブレーション、LED)の動作する回数を設定します。
設定後 ENT キーを押します。



(7) メッセージ

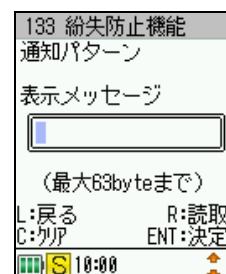
表示するメッセージを設定します。最大63バイトまでのメッセージを設定できます。

(F3)キーを押すと日本語が入力できます。

設定後(ENT)キーを押します。

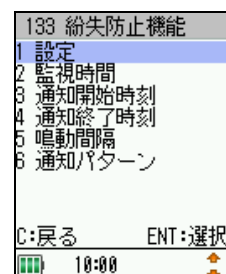
参考

- 日本語の入力方法は『ユーザーズマニュアル』「3-1 基本的な操作と機能」を参照してください。
- キー入力の代わりに、バーコードを読み取って設定することもできます。

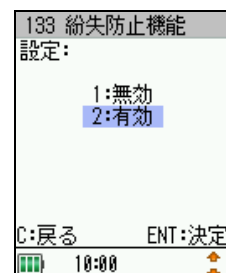


12 (C)キーを押します。

13 [1 設定]を選択し、(ENT)キーを押します。



14 [2 有効]を選択し、(ENT)キーを押します。



15 (C)キーを押します。

16 システムメニューを終了します。

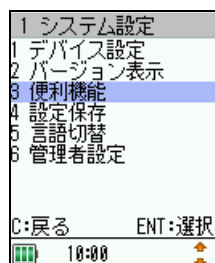
17 指定した監視時間以上放置されると、設定した通知パターンで紛失防止アラームが実行されます。

各種ログ取得

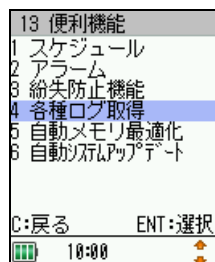
BT-600シリーズ内部に蓄積されている関数ログをドライブ1に保存します。

この関数ログファイルを「データ転送ソフト」を使用してパソコンに送信し、エラーを解析します。

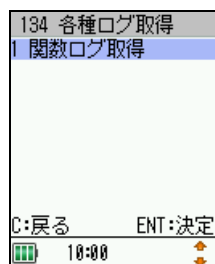
- 1** 【3 便利機能】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



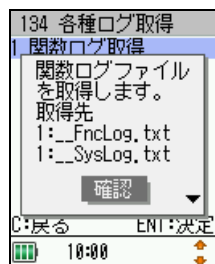
- 2** 【4 各種ログ取得】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 3** 【1 関数ログ取得】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 4** **(ENT)**キーを押します。



- 5** **(ENT)**キーを押します。
関数ログファイルを取得します。



- 6** **(C)**キーを押します。
【便利機能】メニューに戻ります。

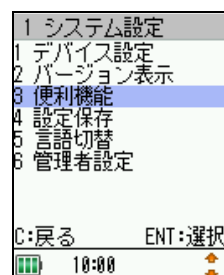
自動メモリ最適化

指定した時刻に、ドライブ0、1、3 (Flash-ROM)、4の最適化を自動的におこないます。

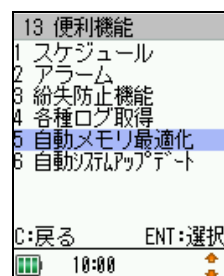
！ ポイント

- 「バックアップモード」を「省電」にして電源 OFF した場合、自動メモリ最適化機能は動作しません。
 冊「バックアップモード」(50ページ)
- 充電中でないと、自動メモリ最適化機能は動作しません。

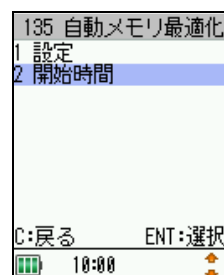
1 【3 便利機能】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



2 【5 自動メモリ最適化】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



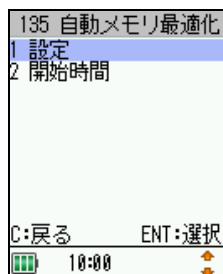
3 【2 開始時間】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



4 通知終了時刻を入力し、**(ENT)**キーを押します。

⌚ キーで修正する場所にカーソルを移動して、キーを押して時刻を入力します。



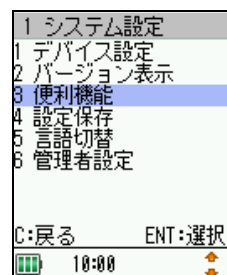
5 【1 設定】を選択し、**(ENT)**キーを押します。**6** 【2 有効】を選択し、**(ENT)**キーを押します。**7** **(C)**キーを押します。**8** システムメニューを終了します。**9** 通信ユニット/充電ユニットにセットし、充電状態にしておきます。**10** 電源OFFの場合のみ、指定した時刻にドライブの最適化を自動的におこないます。

自動システムアップデート

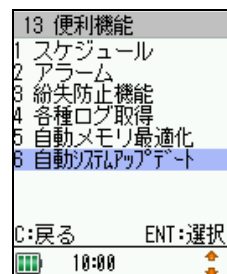
BT-600シリーズ本体のファームウェア(本体システム)を自動的にバージョンアップする機能です。設定した接続先に本体システムのバージョンと異なるファームウェアがあると、自動的にダウンロードし、バージョンアップをおこないます。

自動システムアップデートの「設定」、「機動時刻」、「通信ポート」、「ポート番号」を設定します。

- 1** 【3 便利機能】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

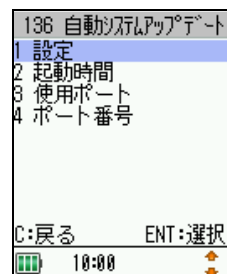


- 2** 【6 自動システムアップデート】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



●設定

- 3** 【1 設定】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

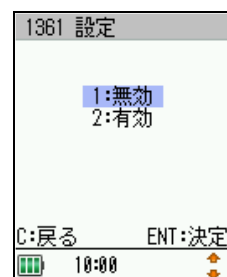


- 4** 自動システムアップデート機能の「有効/無効」を選択します。

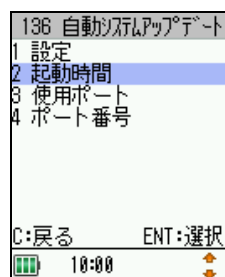
(▲▼)キーで、機能の「有効/無効」を設定し、**(ENT)**キーを押します。
初期状態では「無効」が設定されています。

項目	設定範囲
設定	1:無効 2:有効 (初期値:無効)

(ENT)キーを押します。



●起動時間

5 【2 起動時間】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

6 自動システムアップデート機能の起動時刻を設定します。

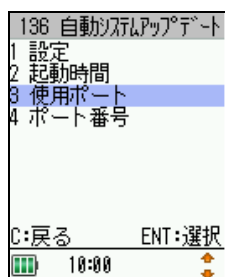
(L)キーで修正する場所にカーソルを移動して、**(ENT)**キーを押して時刻を入力します。

初期状態では「4:00」に設定されています。



(ENT)キーを押します。

●使用ポート

7 【3 使用ポート】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

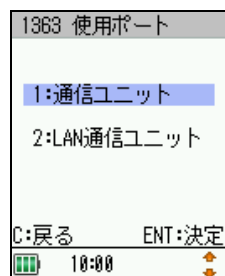
8 自動システムアップデートに使用するポートを選択します。

(L)キー(▲▼)で選択し、**(ENT)**キーを押します。

初期状態では「通信ユニット」が設定されています。

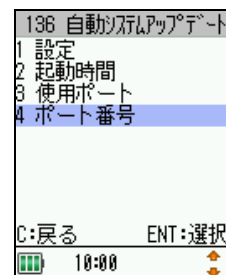
項目	設定範囲
使用ポート	1:通信ユニット
	2:LAN通信ユニット ※BT-UC6LをMODE1で使用する場合 (初期値:通信ユニット)

(ENT)キーを押します。



●ポート番号

9 【4 ポート番号】を選択し、**(ENT)** キーを押します。



10 通信ポートのポート番号を設定します。

(C) キーで修正する場所にカーソルを移動して、**(ENT)** キーを押してポート番号を入力します。

初期状態では「65003」に設定されています。



(ENT) キーを押します。

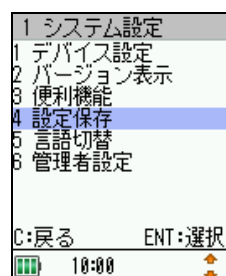
設定保存

BT-600シリーズは、設定変更時は自動的にFlash-ROMに保存されます。ここでは、自動保存されている設定とは別に、設定を保存したい場合に使用します。(設定1または設定2)
また、工場出荷時の設定に戻すこともできます。

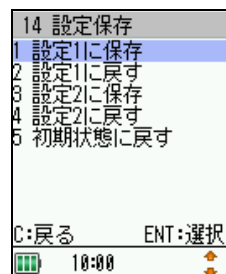
■設定保存

設定1または設定2にシステム設定の内容を保存します。

1 【4 設定保存】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

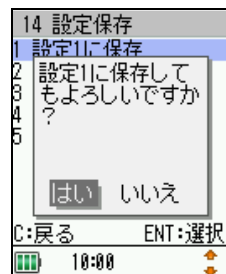


2 【1 設定1に保存】または【3 設定2に保存】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



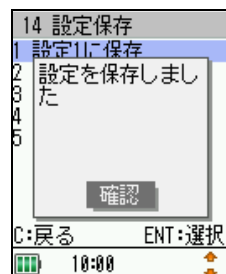
3 【はい】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

【いいえ】を選択した場合、設定を保存しないで[設定保存]メニューに戻ります。



4 **(ENT)**キーを押します。

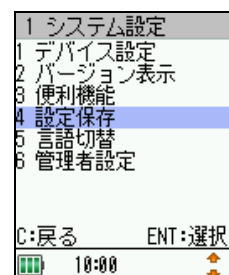
設定1または設定2に保存して、[設定保存]メニューに戻ります。



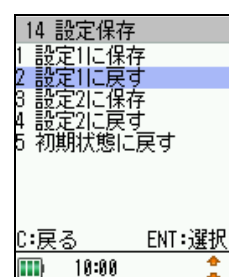
■変更前に戻す

設定1または設定2に保存してある設定に戻します。

1 【4 設定保存】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

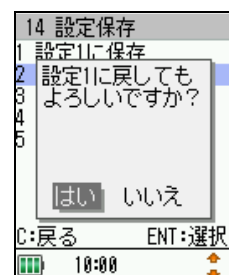


2 【2 設定1に戻す】または【4 設定2に戻す】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



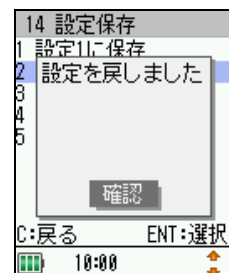
3 【はい】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

【いいえ】を選択した場合、設定を戻さないで[設定保存]メニューに戻ります。



4 **(ENT)**キーを押します。

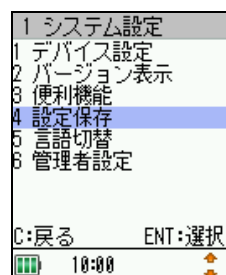
設定1または設定2に設定を戻して、[設定保存]メニューに戻ります。



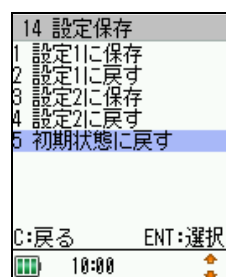
■初期状態にする

システム設定の設定内容を初期状態に戻します。

1 【4 設定保存】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

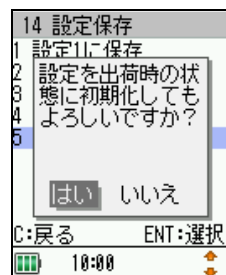


2 【5 初期状態に戻す】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



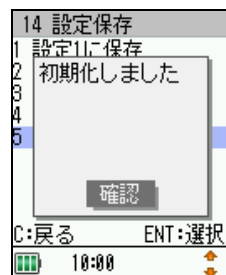
3 【はい】を選択し、**(ENT)**キーを押します。

【いいえ】を選択した場合、初期化せず[設定保存]メニューに戻ります。



4 **(ENT)**キーを押します。

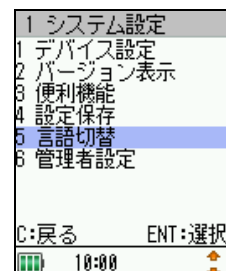
設定を初期化して、[設定保存]メニューに戻ります。



言語切替

システムメニューの表示言語を切り替えます。

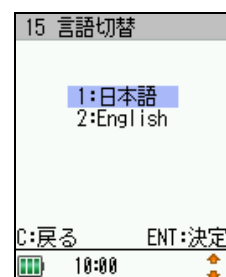
- 1** [5 言語切替]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 2** **(▲▼)**キーで、表示する言語を設定し、**(ENT)**キーを押します。

初期状態では「日本語」が設定されています。

項目	設定範囲
言語切替	日本語/英語 (初期値:日本語)



- 3** **(ENT)**キーを押します。

設定した言語に変更されます。

(C)キーを押すと、設定を変更しないで[システム設定]メニューに戻ります。

管理者設定

管理者パスワード、動作速度、バックアップモードが設定できます。

管理者パスワード

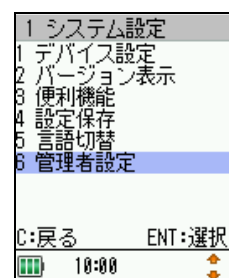
パスワードを設定します。有効にすると、システムメニュー表示時に、パスワードの入力が必要になります。

重要

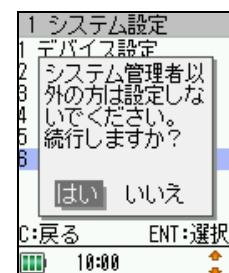
設定したパスワードは忘れないように必ず記録してください。

パスワードを忘れてしまった場合には、端末本体を当社に送付いただく必要があります。
最寄りの営業所にお問い合わせください。

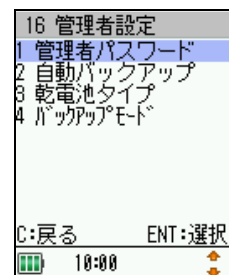
- 1 [6 管理者設定]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



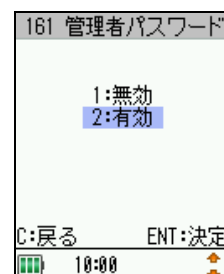
- 2 [はい]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 3 [1 管理者パスワード]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



4 【2 有効】を選択し、**[ENT]**キーを押します。



5 パスワードを入力し、**[ENT]**キーを押します。

パスワードは1～16文字以内の半角英数字で設定します。

[←]キー(**[▶]**)でカーソルが移動します。

[C]キーを押すとカーソルの左の1文字を削除します。

[C]キーを長押しすると入力した文字を削除します。

項目	設定範囲
管理者パスワード	半角1～16文字



参考 キー入力の代わりにバーコードを読み取って設定することも可能です。

6 **[ENT]**キーを押します。

管理者パスワードが設定され[管理者設定]に戻ります。



自動バックアップ

自動バックアップ機能は、ドライブ2(RAM)のデータをドライブ1の空き領域にバックアップして、次の電源投入時にバックアップデータをドライブ2にリストアします。

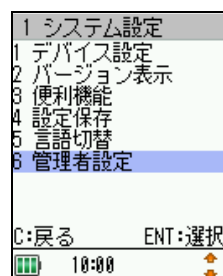
電池残量が減り、ドライブ2のデータが初期化される前にバックアップ機能が起動します。

ドライブ2のファイルをドライブ2フォーマット後も自動的に復旧したい場合に有効な機能です。

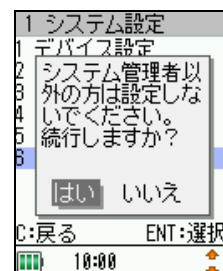


バックアップするドライブ2の領域分の空きがドライブ1にない場合や電池が外れた場合は、バックアップされません。そのため、重要なデータはドライブ1に保存してください。

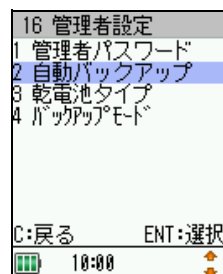
- 1** [6 管理者設定]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 2** [はい]を選択し、**(ENT)**キーを押します。

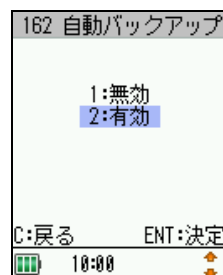


- 3** [2 自動バックアップ]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



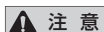
- 4** [2 有効]を選択し、**(ENT)**キーを押します。

自動バックアップ機能が有効になり、[管理者設定]に戻ります。



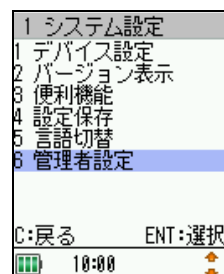
乾電池タイプ

乾電池パックBT-B65を使用している場合の乾電池のタイプを設定します。

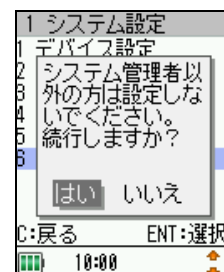


乾電池タイプの選択は正しくおこなってください。
誤って異なる乾電池タイプを選択した場合、正常に動作しません。

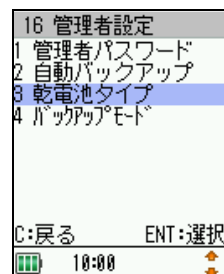
- 1 [6 管理者設定]を選択し、**ENT**キーを押します。



- 2 [はい]を選択し、**ENT**キーを押します。



- 3 [3 乾電池タイプ]を選択し、**ENT**キーを押します。



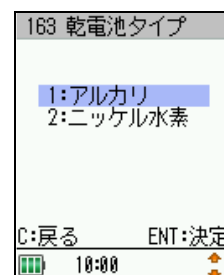
- 4 乾電池のタイプを選択し、**ENT**キーを押します。

初期状態では「通常」が設定されています。

項目	設定範囲
乾電池タイプ	アルカリ/ニッケル水素 (初期値:アルカリ)



乾電池タイプには推奨の型式があります。BT-600シリーズ概説書等で型式をご確認の上、ご使用ください。



バックアップモード

BT-600シリーズは、RAM(ドライブ2)のデータを保持するために電源OFFの状態でも電池を消費しています。

バックアップモード「省電」を使用すると、電源OFF時にRAM内データを保持しないため、電池の消費が少なくなり、電池が長持ちします(日付と時刻は保持されます)。

乾電池パックBT-B65を使用している場合に効果のある省電力モードです。

！ ポイント

- バックアップモード「省電」では、電源OFF時にRAM(ドライブ2)データ保持をしないため、電源をONにしたときに必ずRAMが初期化されます。このとき、メッセージは表示されず、強制的に初期化されます。

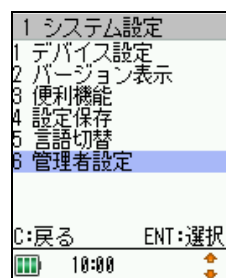
重要なデータはRAM(ドライブ2)に保存しないでください。

- 「ウェイクアップ機能」は無効になります。

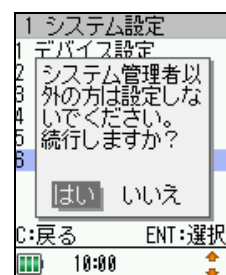
📖 『ユーザーズマニュアル』「ウェイクアップ機能」

- 「スケジュール機能」「アラーム機能」「紛失防止機能」「自動メモリ最適化機能」「レジャー機能」は無効になります。

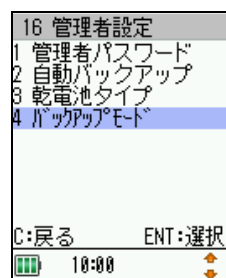
- 1 【6 管理者設定】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 2 【はい】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



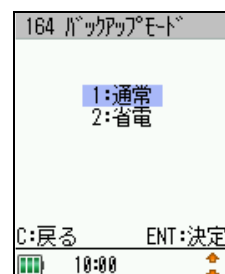
- 3 【4 バックアップモード】を選択し、**(ENT)**キーを押します。



4 バックアップモードを選択し、**[ENT]**キーを押します。

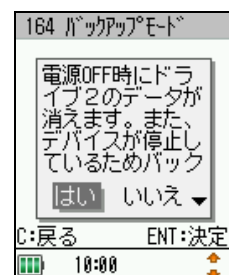
初期状態では「通常」が設定されています。

項目	設定範囲
バックアップモード	通常/省電 (初期値: 通常)



5 「省電」に設定した場合は、次の画面が表示されます。[はい]を選択し、**[ENT]**キーを押します。

バックアップモードが変更され、「管理者設定」に戻ります。



ネットワークや、Bluetooth、ダイヤルアップなどを設定します。



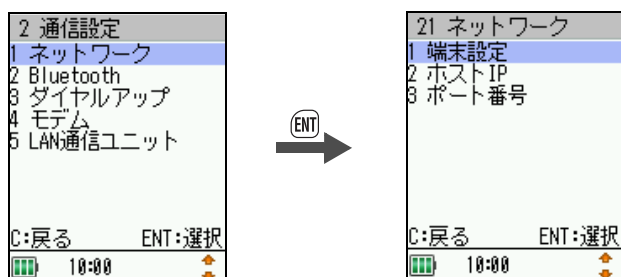
ポイント

システム設定で変更した内容は、自動的にFlash-ROMに保存されます。

ネットワーク

ネットワークの通信設定をおこないます。

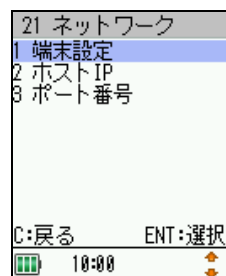
- 1 [1 ネットワーク]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



端末設定

端末の名前を設定します。

- 1 **(○)**キーで[1 端末設定]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



- 2 [端末名]を入力し、**(ENT)**キーを押します。

項 目	設定範囲
端末名	半角英数字、記号(0～63文字)

入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、『ユーザズマニュアル』を参照してください。

項 目	説 明
(○) キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
(F3) キー	英文字入力のON/OFF
(C) キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。





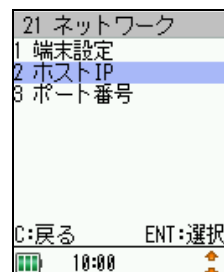
参考


バーコードを読み取って設定することも可能です。



ホストIP

通信ユニットと通信するホスト(サーバ)PCのIPアドレスを設定します。


- 1  キーで[2 ホストIP]を選択し、 キーを押します。















- 2 ホストIPアドレスを設定します。設定したい項目の数値を入力し、 キーを押します。


テンキーで値を入力します。 キー(◀▶)または キーを押すと、区切り単位で移動します。


項目	設定範囲
ホストIP	*** ***/*** ***/*** ***/*** ***/ (0.0.0.1~255.255.255.254)

 例 192.168.10.1と入力する場合には、次のように入力します。



- 3  キーを押します。

 キーを押すと、設定を変更しないで[ネットワーク]メニューに戻ります。



ポート番号設定

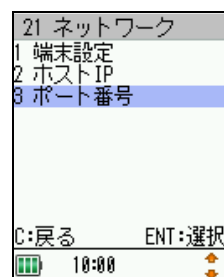
ポート番号(ファイル転送)を変更できます。



NIResolver用のポート番号が確認できます(変更はできません)。

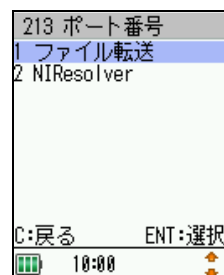
●ファイル転送

ファイル転送用のポート番号を設定します。

- 1  キーで[3 ポート番号]を選択し、 キーを押します。




- 2  キーで[1 ファイル転送]を選択し、 キーを押します。




- 3 テンキーでポート番号を入力します。


項 目	設定内容
ポート番号設定 (ファイル転送)	ファイル転送用のポート番号を設定します。 設定範囲: 半角数字、49152~65535 (初期値: 65003)

 **参 考** バーコードを読み取ってポート番号を設定することも可能です。



- 4  キーを押します。

ポート番号が設定されます。

 キーを押すと、設定を変更しないで[ポート番号]メニューに戻ります。

●NIResolver

NIResolver用のポート番号を確認します。ポート番号は変更できません。

- 1  キーで【2 NIResolver】を選択し、 キーを押します。



- 2 ポート番号を確認し、 キーを押します。



Bluetooth

Bluetooth機器との通信設定をおこないます。

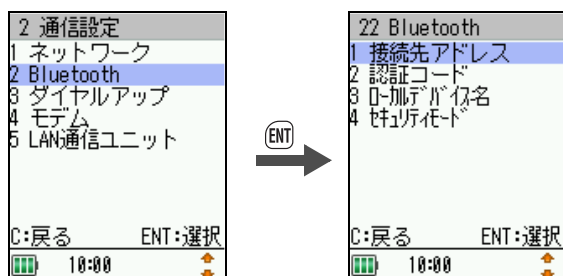
Bluetooth搭載携帯電話/PHSを使ったダイヤルアップ通信の設定は【3 ダイヤルアップ】も必要です。



ポイント

BT-600Bの設定です。BT-600では設定できません。

- 1 キーで【2 Bluetooth】を選択し、 キーを押します。



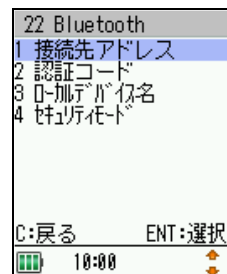
接続先機器アドレス

接続先機器のアドレス(BDアドレス)設定をおこないます。

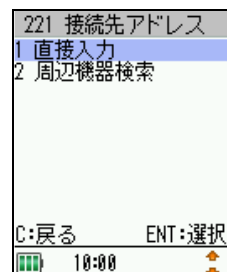
BDアドレスを直接キー入力する方法と無線を使用し、周囲にあるBluetooth機器を検索する方法があります。

■直接入力

- 1 キーで【1 接続先アドレス】を選択し、 キーを押します。



- 2 キーで【1 直接入力】を選択し、 キーを押します。



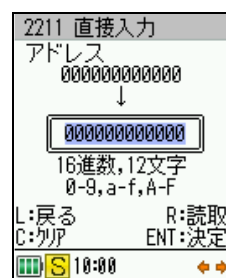
3 アドレスを入力します。

項 目	設定範囲
アドレス	16進数(0～9、a～f、A～F)：12文字 (初期設定：000000000000)

入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、『ユーザズマニュアル』を参照してください。

項 目	説 明
キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
キー	英文字入力のON/OFF
キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



参 考 バーコードを読み取ってアドレスを設定することも可能です。

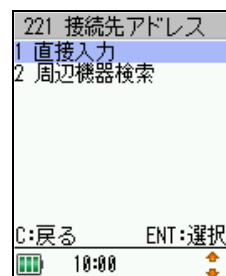
4 キーを押します。

接続先機器アドレスが設定されます。

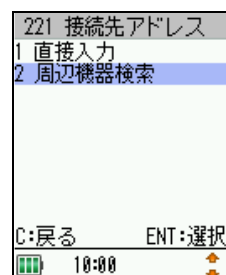
キーを押すと、設定を変更しないで[接続先アドレス]メニューに戻ります。

■周辺機器検索

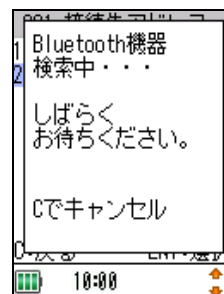
1 キーで[1 接続先アドレス]を選択し、 キーを押します。



2 キーで[2 周辺機器検索]を選択し、 キーを押します。



周囲にあるBluetooth機器の検索が開始されます。



検索されたBluetooth機器がリスト表示されます。



参考 Bluetoothの無線圏内(見通し10m)にあるBluetooth機器がすべて表示されます。

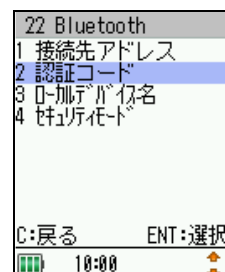
- 3** **○**キーで使用するBluetooth携帯プリンタ/携帯電話/PHSを選択し、**ENT**キーを押します。
BDアドレスが入力された状態で、[接続先アドレス]画面に戻ります。

ポイント BT-600Bが対応しているプロファイルは「SPP」「DUN-DT」です。

認証コード

認証コード(PINコード)の設定をおこないます。


- 1  キーで[2 認証コード]を選択し、 キーを押します。






- 2 認証コードを入力します。

項 目	設定範囲
認証コード	半角英数字、記号：1～16文字 (初期設定:3500)


入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、 『ユーザズマニュアル』を参照してください。


項 目	説 明
 キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
 キー	英文字入力のON/OFF
 キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



 **参 考** バーコードを読み取って認証コードを設定することも可能です。



- 3  キーを押します。

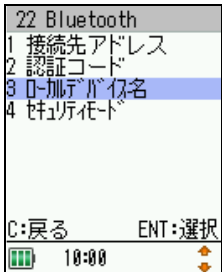
認証コードが設定されます。

 キーを押すと、設定を変更しないで[Bluetooth]メニューに戻ります。

ローカルデバイス名

ローカルデバイス名の設定をおこないます。


- 1  キーで[3 ローカルデバイス名]を選択し、 キーを押します。






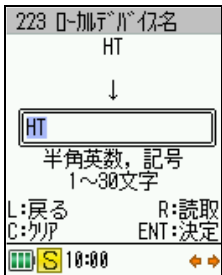
- 2 ローカルデバイス名を入力します。


項 目	設定範囲
ローカルデバイス名	半角英数字、記号：1～30文字 (初期設定:HT)


入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、 『ユーザズマニュアル』を参照してください。


項 目	説 明
 キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
 キー	英文字入力のON/OFF
 キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



 **参 考** バーコードを読み取ってローカルデバイス名を設定することも可能です。



- 3  キーを押します。

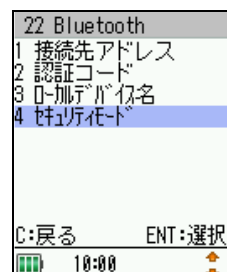
ローカルデバイス名が設定されます。


 キーを押すと、設定を変更しないで[Bluetooth]メニューに戻ります。

セキュリティモード

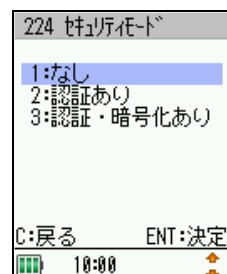
セキュリティモードの設定をおこないます。


- 1  キーで[4 セキュリティモード]を選択し、 キーを押します。




- 2  キー(▲▼)でセキュリティモードを選択します。

項 目	設定範囲
セキュリティモード	なし(初期設定) 認証あり 認証・暗号化あり



- 3  キーを押します。

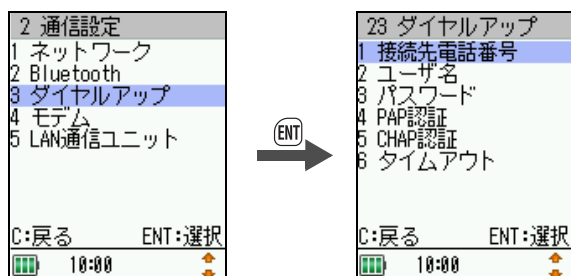
セキュリティモードが設定されます。

 キーを押すと、設定を変更しないで[Bluetooth]メニューに戻ります。

ダイヤルアップ

専用アナログモデムBT-MD1またはBluetooth搭載携帯電話を使ったダイヤルアップ通信の設定をおこないます。

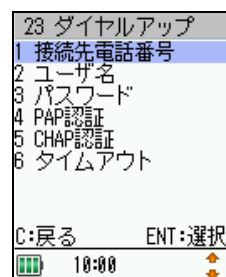
- 1 ○キーで[3 ダイヤルアップ]を選択し、(ENT)キーを押します。



接続先電話番号

接続先の電話番号を設定します。

- 1 ○キーで[1 接続先電話番号]を選択し、(ENT)キーを押します。



- 2 テンキーで接続先電話番号を入力します。

項 目	設定範囲
接続先電話番号設定	半角英数字、記号: 1～16文字 (初期設定: 0)

入力には、次のキーを使用します。文字の入力方法については、
 開本『ユーザーズマニュアル』を参照してください。

項 目	説 明
○キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
(F3)キー	英文字入力のON/OFF
(C)キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



参 考 バーコードを読み取って接続先電話番号を設定することも可能です。



- 3 (ENT)キーを押します。

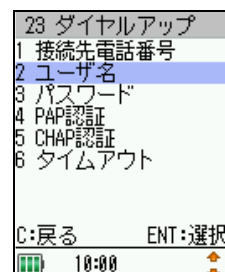
接続先電話番号が設定されます。

(L)キーを押すと、設定を変更しないで[ダイヤルアップ]メニューに戻ります。

ユーザ名

ダイヤルアップ用のユーザ名を設定します。


- 1  キーで[2 ユーザ名]を選択し、 キーを押します。






- 2 ユーザ名を入力します。


項 目	設定範囲
ユーザ名	半角英数字、記号:0~30文字 (初期設定:なし)


入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、 『ユーザズマニュアル』を参照してください。


項 目	説 明
 キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
 キー	英文字入力のON/OFF
 キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



 **参 考** バーコードを読み取ってユーザ名を設定することも可能です。



- 3  キーを押します。

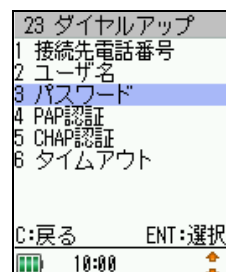
ユーザ名が設定されます。

 キーを押すと、設定を変更しないで[ダイヤルアップ]メニューに戻ります。

パスワード

ダイヤルアップ用のパスワードを設定します。


- 1  キーで[3 パスワード]を選択し、 キーを押します。






- 2 パスワードを入力します。


項目	設定範囲
パスワード	半角英数字、記号:0~30文字 (初期設定:0バイト設定済み)


入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、 『ユーザズマニュアル』を参照してください。


項目	説明
 キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
 キー	英文字入力のON/OFF
 キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



 **参考** バーコードを読み取ってダイヤルアップパスワードを設定することも可能です。



- 3  キーを押します。

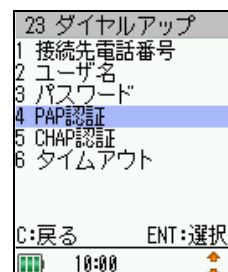
ダイヤルアップパスワードが設定されます。


 キーを押すと、設定を変更しないで[ダイヤルアップ]メニューに戻ります。

PAP認証

ダイヤルイン時のPAP認証モードを設定します。


- 1  キーで[4 PAP認証]を選択し、 キーを押します。




- 2  キーでPAP認証の有効/無効を選択します。

項 目	設定範囲
PAP認証	無効 有効 (初期設定:有効)





- 3  キーを押します。

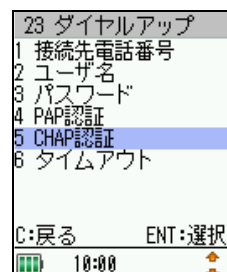
PAP認証の有効/無効が設定されます。

 キーを押すと、設定を変更しないで[ダイヤルアップ]メニューに戻ります。

CHAP認証

ダイヤルイン時のCHAP認証モードを設定します。



- 1  キーで[5 CHAP認証]を選択し、 キーを押します。



- 2  キーでCHAP認証の有効/無効を選択します。



項 目	設定範囲
CHAP認証	無効 有効 (初期設定: 有効)

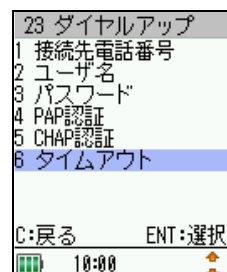


- 3  キーを押します。
CHAP認証の有効/無効が設定されます。
 キーを押すと、設定を変更しないで[ダイヤルアップ]メニューに戻ります。

タイムアウト

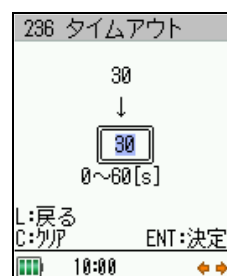
接続試行タイムアウト時間を設定します。



- 1  キーで[6 タイムアウト]を選択し、 キーを押します。



- 2 テンキーでタイムアウトの時間を入力します。

項 目	設定範囲
タイムアウト	半角数字:0~60(単位:秒) (初期設定:30秒)

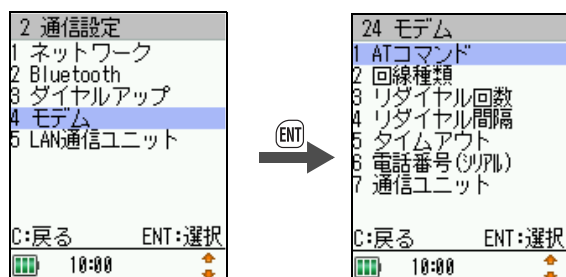


- 3  キーを押します。
タイムアウトの時間が設定されます。
 キーを押すと、設定を変更しないで[ダイヤルアップ]メニューに戻ります。

モデム

専用アナログモデムBT-MD1との通信設定をおこないます。

- 1 ○キーで[4 モデム]を選択し、(ENT)キーを押します。



ATコマンド

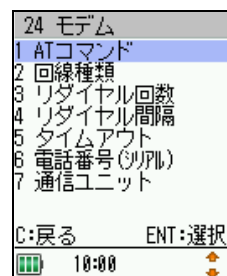
アナログモデムへダイヤルする前に、初期化用ATコマンドが必要な場合に設定します。



ポイント

BT-MD1を使用する場合は、設定する必要はありません。

- 1 ○キーで[1 ATコマンド]を選択し、(ENT)キーを押します。



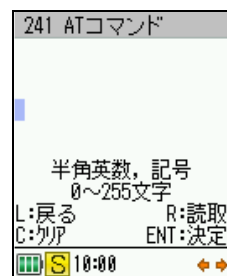
- 2 ATコマンドを入力します。

項目	設定範囲
ATコマンド	半角英数字、記号:0~255文字

入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、『ユーザズマニュアル』を参照してください。

項目	説明
○キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
(F3)キー	英文字入力のON/OFF
(C)キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



参考

バーコードを読み取ってATコマンドを設定することも可能です。



- 3 (ENT)キーを押します。

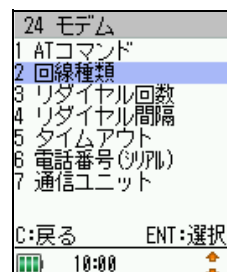
ATコマンドが設定されます。

(L)キーを押すと、設定を変更しないで[モデム]メニューに戻ります。

回線種類

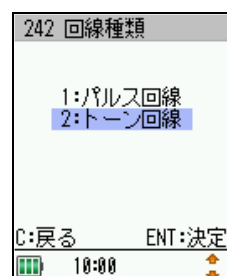
モデムで使用する回線の種類を設定します。



- 1  キーで[2 回線種類]を選択し、 キーを押します。



- 2 回線種類を選択します。



項 目	設定範囲
回線種類	パルス回線 トーン回線 (初期設定: トーン回線)

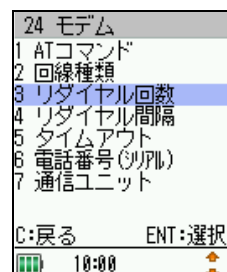


- 3  キーを押します。
回線種類が設定されます。
 キーを押すと、設定を変更しないで[モデム]メニューに戻ります。

リダイヤル回数

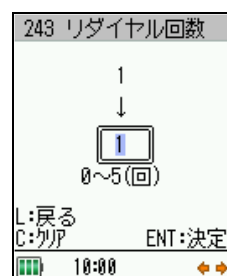
リダイヤルの回数を設定します。



- 1**  キーで[3 リダイヤル回数]を選択し、 キーを押します。



- 2** テンキーでリダイヤルの回数を入力します。

項 目	設定範囲
リダイヤル回数	半角数字:0~5(単位:回) (初期設定:1回)

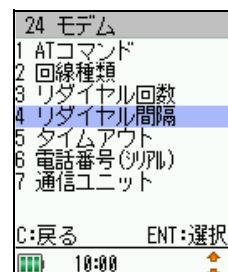


- 3**  キーを押します。
リダイヤルの回数が設定されます。
 キーを押すと、設定を変更しないで[モデム]メニューに戻ります。

リダイヤル間隔

リダイヤルの間隔を設定します。



- 1  キーで[4 リダイヤル間隔]を選択し、 キーを押します。



- 2 テンキーでリダイヤル間隔の時間を入力します。



項 目	設定範囲
リダイヤル間隔	半角数字:0~30(単位:秒) (初期設定:5秒)

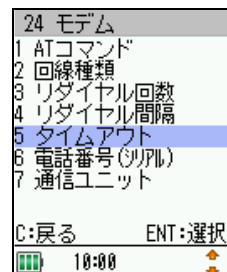


- 3  キーを押します。
リダイヤル間隔の時間が設定されます。
 キーを押すと、設定を変更しないで[モデム]メニューに戻ります。

タイムアウト

モデムのタイムアウト時間を設定します。



- 1  キーで[5 タイムアウト]を選択し、 キーを押します。



- 2 テンキーでタイムアウトの時間を入力します。

項 目	設定範囲
タイムアウト	半角数字:0~115(単位:秒) (初期設定:50秒)



- 3  キーを押します。
 タイムアウトの時間が設定されます。
 キーを押すと、設定を変更しないで[モデム]メニューに戻ります。

電話番号(シリアル)

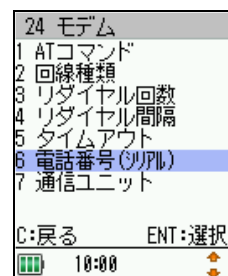
専用アナログモデムBT-MD1を使用し、「シリアル接続」する場合の接続先の電話番号を設定します。



ポイント

BT-MD1で「PPP接続」する場合の接続先電話番号は、「ダイヤルアップ」で設定します。
 ④「ダイヤルアップ」(62ページ)

- 1 ①キーで[6 電話番号(シリアル)]を選択し、②キーを押します。



- 2 テンキーで電話番号を入力します。

項目	設定範囲
電話番号(シリアル)	半角英数字、記号: 1～16文字 (初期設定: 0)

入力には、次のキーを使用します。

文字の入力方法については、④『ユーザーズマニュアル』を参照してください。

項目	説明
①キー	カーソルの移動
テンキー	英文字、数字、記号入力
③(F3)キー	英文字入力のON/OFF
④(C)キー	カーソル右側の1文字を削除します。 長押しすると、全ての文字を削除します。



参考 バーコードを読み取って電話番号(シリアル)を設定することも可能です。

- 3 ②(ENT)キーを押します。

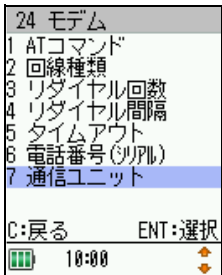
接続先電話番号が設定されます。

①(L)キーを押すと、設定を変更しないで[ダイヤルアップ]メニューに戻ります。

通信ユニット

RS-232C通信ユニットBT-UC6R経由で専用アナログモデムBT-MD1と通信する場合の通信速度を設定します。専用アナログモデムBT-MD1については、『BT-MD1 ユーザーズマニュアル』を参照してください。

1 キーで、[7 通信ユニット]を選択し、キーを押します。

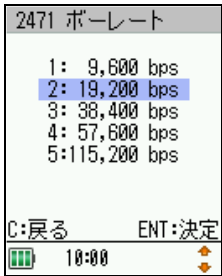


2 キーを押して、通信速度(ボーレート)設定画面を表示します。



3 キー(▲▼)で、通信速度(ボーレート)を選択し、キーを押します。

項 目	設定範囲
ボーレート設定	9,600
	19,200
	38,400
	57,600
	115,200
	(初期値: 19200)



ポイント 通常、通信速度は19,200 bpsでご使用ください。

4 キーを押します。

設定したボーレートに変更されます。

キーを押すと、設定を変更しないで[通信ユニット]メニューに戻ります。

LAN通信ユニット

LAN通信ユニットBT-UC6Lのネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS、ポート番号、ボーレート※)をおこないます。

※BT-600シリーズとBT-UC6Lとの間の通信速度

参考 設定後の識別のため、BT-UC6LにIPアドレスの設定値をシールに記入して貼っておくことをおすすめします。

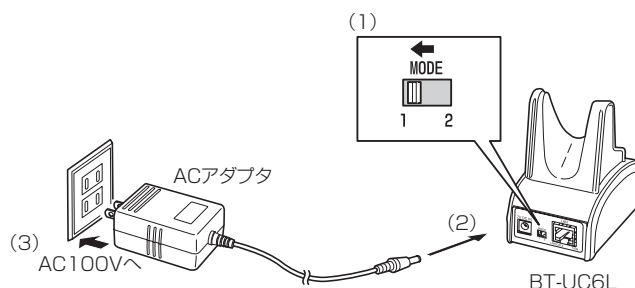
- 重要**
- 誤った設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ)をすると、ネットワークに影響が発生する場合があります。設定は、システム管理者(ネットワーク管理者)がおこなってください。
 - 指定したとき以外、設定時には、BT-UC6LにLANケーブルを接続しないでください。

設定前の準備

BT-UC6Lにネットワーク設定をする前に必要な作業について説明します。

- 1** BT-UC6Lの背面にあるMODE1/MODE2切り替えスイッチを「MODE1」に設定して、ACアダプタを接続します。

MODE1/MODE2切り替えスイッチを「MODE1」に設定してからACアダプタを接続してください。



- 2** 設定するBT-UC6Lが複数台ある場合、すべてのBT-UC6Lで手順1をおこないます。

BT-UC6L書き込み

BT-600シリーズを使ってネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレート)をBT-UC6Lに書き込みます。各種数値を直接入力して設定する「直接設定」と、DHCP サーバからネットワーク設定を自動的に取得する「自動取得設定」の2種類の方法があります。

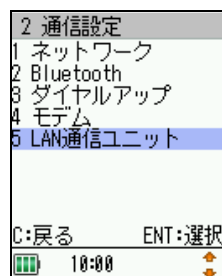
■ネットワーク設定を直接設定する

ネットワーク設定内容を個別に直接指定して設定する「直接設定」の方法を説明します。

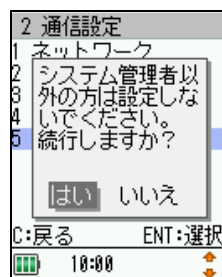
1 BT-UC6LのMODE1/MODE2切り替えスイッチを「MODE1」に設定します。

☞「設定前の準備」(75ページ)

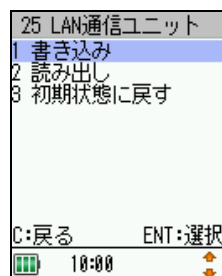
2 キーで[5 LAN通信ユニット]を選択し、キーを押します。



3 [はい]を選択しキーを押します。

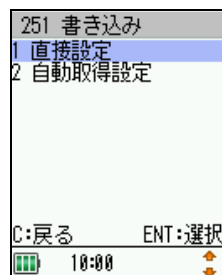


4 キーで[1 書き込み]を選択し、キーを押します。

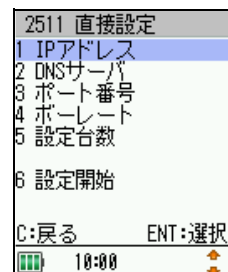


5 キーで[1 直接設定]を選択し、キーを押します。

「直接設定」メニューが表示されます。



- 6 キーで[1 IPアドレス]を選択し、 キーを押します。
「IPアドレス」メニューが表示されます。



- 7 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」を設定し、 キーを押します。
「直接設定」メニューに戻ります。

項目	設定範囲
IPアドレス	*** ***(0.0.0.1～255.255.255.254)
サブネットマスク	*** ***(0.0.0.0～255.255.255.254)
ゲートウェイ	*** ***(0.0.0.0～255.255.255.254)



例

192.168.10.1と入力する場合には、次のように入力します。

参考

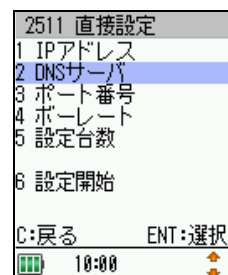
キーの「◀」、「▶」を使用すると、カーソルを左右に移動できます。

ポイント

IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスが正しく設定されていない場合には、右のような画面が表示されます。



- 8 キーで[2 DNSサーバ]を選択し、 キーを押します。



- 9 「プライマリDNS」および「セカンダリDNS」を設定し、**(ENT)** キーを押します。
「直接設定」メニューに戻ります。

項目	設定範囲
プライマリDNS	*** ** * (0.0.0.0~255.255.255.254)
セカンダリDNS	*** ** * (0.0.0.0~255.255.255.254)



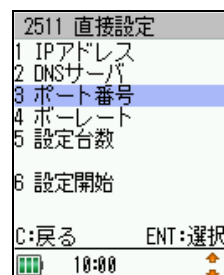
- 例** 192.168.10.1と入力する場合には、次のように入力します。
①⑨②①⑥⑧①①①①①①①①①①

参考 **(ENT)** キーの「◀」、「▶」を使用すると、カーソルを左右に移動できます。

- ！ポイント** プライマリDNS、セカンダリDNSが正しく設定されていない場合には、右のような画面が表示されます。



- 10 **(ENT)** キーで[3 ポート番号]を選択し、**(ENT)** キーを押します。



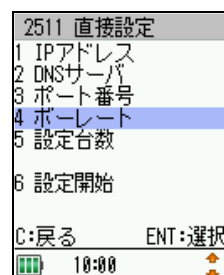
- 11 ポート番号を設定し、**(ENT)** キーを押します。
「直接設定」メニューに戻ります。

項目	設定範囲
ポート番号	1025~65535

- ！ポイント** 特に変更する必要のない場合は初期設定(9004)のままにしておきます。



- 12 **(ENT)** キーで[4 ボーレート]を選択し、**(ENT)** キーを押します。

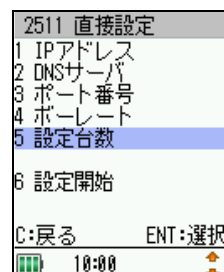


13 「878900 bps」を選択して **ENT** キーを押します。「直接設定」メニューに戻ります。

項目	設定範囲
ボーレート	878900 bps



14 **○** キーで [5 設定台数] を選択し、**ENT** キーを押します。



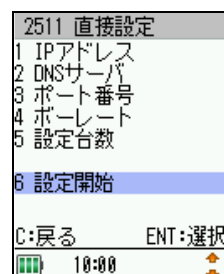
15 「設定台数」を設定し、**ENT** キーを押します。

「直接設定」メニューに戻ります。

項目	設定範囲
設定台数	1～64

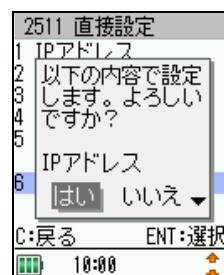


16 [6 設定開始] を選択し、**ENT** キーを押します。

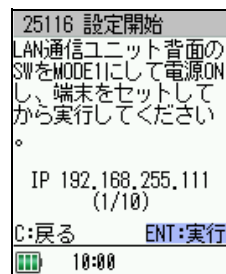


確認画面が表示されます。

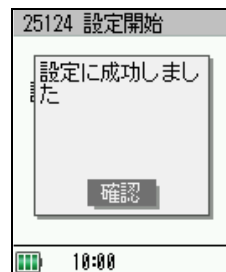
設定内容は、**○** キーの **▼**、**▲** でスクロールして確認できます。



- 17** BT-600シリーズをBT-UC6Lにセットして、**ENT**キーを押します。
ネットワーク設定の書き込みを開始します。



- 18** 「設定に成功しました」画面が表示されたら**ENT**キーを押します。



設定台数でセットした台数(最大64台)まで連続して書き込みを続けることができます。

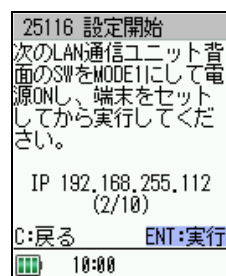
複数台を設定するときには、IPアドレスの最後の数値が1ずつ増加します。
254の次は1に戻ります。

台数分の設定が完了すると、[直接設定]メニューに戻ります。



ポイント

設定後は必ずBT-UC6LのACアダプタを取り外して電源をOFFにしてください。



■ ネットワーク設定を自動的に取得する

DHCPサーバのあるネットワーク環境で、ネットワーク設定を自動的に取得、設定する「自動取得設定」の設定方法を説明します。

- 1** BT-UC6LのMODE1/MODE2切り替えスイッチを「MODE1」に設定します。
☐「設定前の準備」(75ページ)

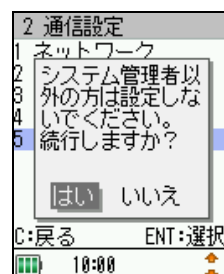
- 2** **○**キーで[5 LAN通信ユニット]を選択し、**ENT**キーを押します。



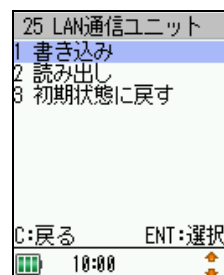
右のダイアログが表示されます。

3 [はい]を選択し[ENT]キーを押します。

通信設定メニューに戻るには、「いいえ」を選んで[ENT]キーを押すか
[R]キーを押します。



4 [F]キーで[1 書き込み]を選択し、[ENT]キーを押します。



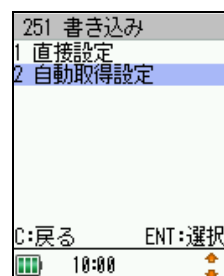
5 [F]キーで[2 自動取得設定]を選択し、[ENT]キーを押します。

「自動取得設定」メニューが表示されます。

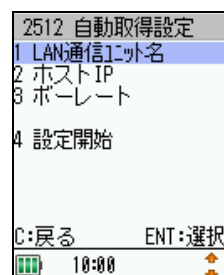


ポイント

ネットワーク設定を自動的に取得するには、ネットワーク上に正常に機能しているDHCPサーバが必要になります。



6 [F]キーで[1 LAN通信ユニット名]を選択し、[ENT]キーを押します。



7 BT-UC6Lの名前を、半角英数字63文字以内で設定し、[ENT]キーを押します。 「自動取得設定」メニューに戻ります。



参考

[F]キーの「◀」、「▶」を使用すると、カーソルを左右に移動できます。

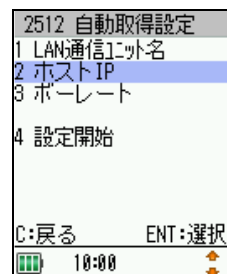


ポイント

LAN通信ユニット名は、1台ごとにすべて異なっている必要があります。



8 キーで[2 ホストIP]を選択し、 キーを押します。




9 サーバなど、BT-600シリーズが通信する相手の「ホストIP」を設定し、 キーを押します。

「自動取得設定」メニューに戻ります。

項目	設定範囲
ホストIP	*** ** * (0.0.0.0~255.255.255.254)

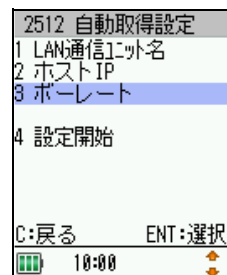
例 192.168.10.1と入力する場合には、次のように入力します。
           

参考  キーの「◀」、「▶」を使用すると、カーソルを左右に移動できます。

ポイント ホストIP が正しく設定されていない場合には、右のような画面が表示されます。



10 キーで[3 ボーレート]を選択し、 キーを押します。



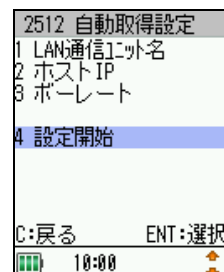
11 「878900 bps」を選択して キーを押します。

「自動取得設定」メニューに戻ります。

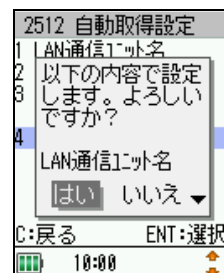
項目	設定範囲
ボーレート	878900 bps



12 [4 設定開始]を選択して[ENT]キーを押します。



確認画面が表示されます。設定する内容は、 キーの▼、▲でスクロールして確認できます。

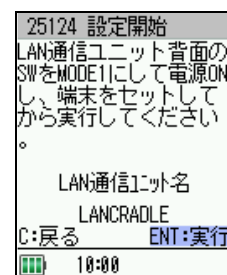


13 BT-UC6Lに、DHCPサーバのあるネットワークにつながったLANケーブルを接続します。

14 LANケーブルを接続したBT-UC6LにBT-600シリーズをセットして、[ENT]キーを押します。

ネットワーク設定の書き込みを開始します。

複数のBT-UC6Lを設定する場合は、手順7で「LAN通信ユニット名」を変えてから手順12「設定開始」に進みます。

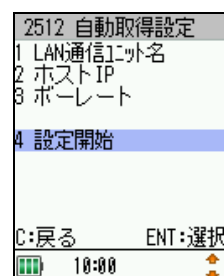
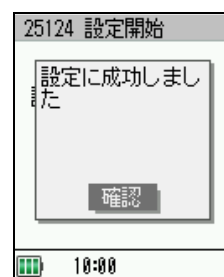


ポイント

設定後は必ずBT-UC6LのACアダプタを取り外して電源をOFFにしてください。

15 「設定に成功しました」画面が表示されたら[ENT]キーを押します。

[自動取得設定]メニューに戻ります。





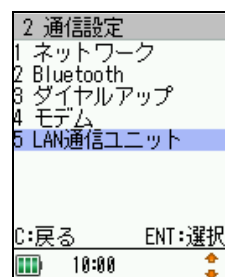
BT-UC6Lのネットワーク設定を読み出す

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリ DNS、セカンダリ DNS、ポート番号、ポートをBT-UC6Lから読み出します。

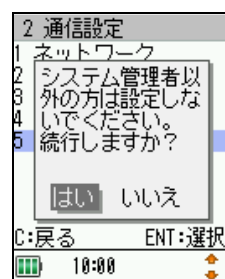
- 1 BT-UC6LのMODE1/MODE2切り替えスイッチを「MODE1」に設定します。



☞「設定前の準備」(75ページ)

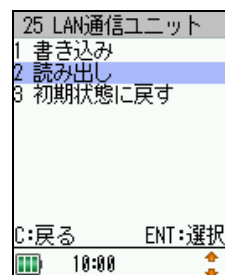
- 2  キーで【5 LAN通信ユニット】を選択し、 キーを押します。




- 3 [はい]を選択しキーを押します。

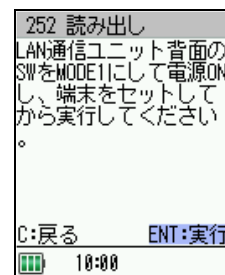


- 4  キーで【2 読み出し】を選択し、 キーを押します。

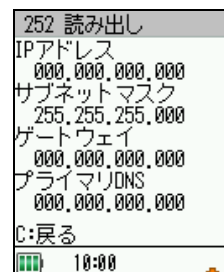


- 5 BT-600シリーズをBT-UC6Lにセットして、

 キーを押します。
読み出しを開始します。

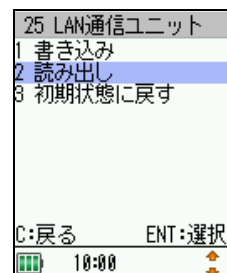


読み出しが完了すると、BT-UC6Lに設定されているIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレートが表示されます。表示内容は、カーソルキーの▼、▲でスクロールして確認できます。



6 ㊟キーを押します。

[LAN通信ユニット]メニューに戻ります。



BT-UC6Lのネットワーク設定を初期状態に戻す

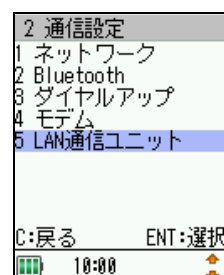
BT-UC6Lのネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレート)を出荷時の状態に戻します。初期状態の設定は次のようになります。

項目	初期値
IPアドレス	192.168.0.111
サブネットマスク	255.255.0.0
ゲートウェイ	192.168.0.1
プライマリDNS	0.0.0.0
セカンダリDNS	0.0.0.0
ポート番号	9004
ボーレート	878900 bps

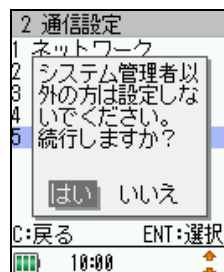
1 BT-UC6LのMODE1/MODE2切り替えスイッチを「MODE1」に設定します。

📖「設定前の準備」(75ページ)

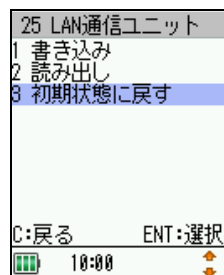
2 ㊟キーで[5 LAN通信ユニット]を選択し、ENTキーを押します。



3 [はい]を選択し ENT キーを押します。

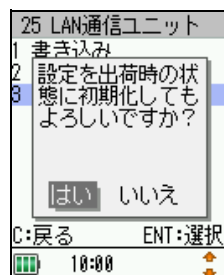


4 C キーで[3 初期状態に戻す]を選択し、 ENT キーを押します。



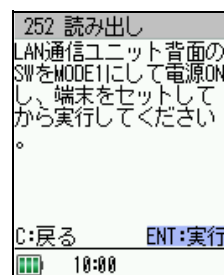
5 初期状態に戻す場合は、 C キーで「はい」を選んで ENT キーを押すか L キーを押してください。

メニューに戻るには、「いいえ」を選んで ENT キーを押すか R キーを押します。



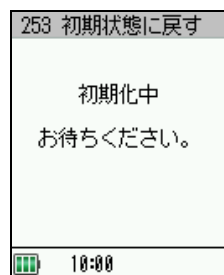
6 BT-600シリーズをBT-UC6Lにセットします。

メニューに戻るには、 C キーを押します。



7 ENT キーを押します。

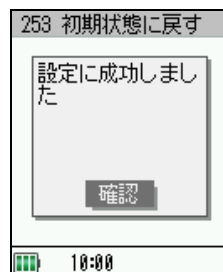
初期化が開始されます。



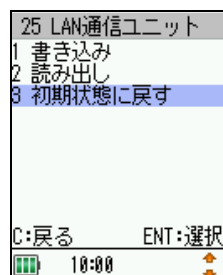
8 初期化が完了すると、右の画面が表示されます。

！ ポイント

設定後は必ずBT-UC6LのACアダプタを取り外して電源をOFFにしてください。



9 (ENT)キーを押すと、元のメニューに戻ります。



3 ファイル操作

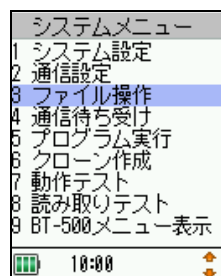
BT-600シリーズ内のファイル进行操作できます。

ファイル操作メニューの操作について

■ファイル操作メニューの起動と終了

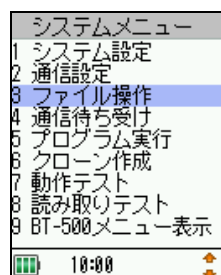
●ファイル操作メニューの起動

【システムメニュー】の[3 ファイル操作]を選択すると、ファイル操作メニューが起動します。



●ファイル操作メニューの終了

最上層で[C]キー押すと【システムメニュー】に戻ります。



■ドライブの選択と移動

ドライブは、最上層で選択します。

1 ○キー(▲▼)で選択します。

右の画面は、[ドライブ0]を選択した例です。



2 (ENT)キーを押すと、そのドライブ内に移動します。



■ファイルの複数選択

1 ファイルを選択し(R)キーを押します。

右の画面では、「test1.app」と「test1.sb3」を同時に選択しています。

(例えば、この状態でメニューから「削除」を実行すると、2つのファイルを一度に削除することができます)。



■メニューの機能

ドライブ、ファイル、フォルダを選択した状態で(L)キーを押すと、メニューが表示されます。

メニューから次の機能が使用できます。操作方法は、それぞれの説明ページを参照してください。

ドライブ選択中のメニュー

- 詳細情報 開「ドライブの詳細情報表示」(90ページ)
- ドライブ初期化 開「ドライブの初期化」(91ページ)
- メモリ最適化 ROM 開「メモリの最適化」(91ページ)

(このドライブ)選択中のメニュー

- 貼り付け 開「ファイルの貼り付け」(93ページ)

ファイル選択中のメニュー


- 開く 開「ファイルを開く」(94ページ)
- 詳細情報 開「ファイルの詳細情報表示」(95ページ)
- コピー 開「ファイルのコピー」(96ページ)
- 名前変更 開「ファイルの名前変更」(97ページ)
- 名前コピー 開「ファイルの名前コピー」(98ページ)
- 削除 開「ファイルの削除」(99ページ)
- 送信 開「ファイルの送信」(100ページ)


メニューの操作

ドライブ、ファイルを選択した状態で **(L)** キーを押すと、メニューが表示されます。
 選択中のアイテム(ドライブ、フォルダ)により、メニューに表示される機能が異なります。

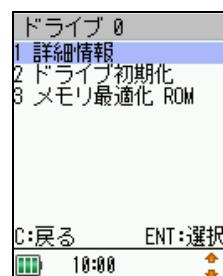
ドライブ選択中のメニュー

ドライブを選択しているときは、メニューから次の機能が選択できます。

詳細情報 ……………  「ドライブの詳細情報表示」(90ページ)

ドライブ初期化 ………  「ドライブの初期化」(91ページ)

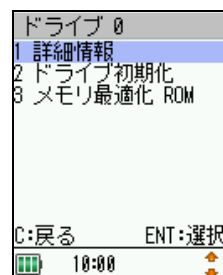
メモリ最適化 ROM …  「メモリの最適化」(91ページ)



■ドライブの詳細情報表示

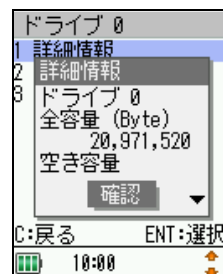
ドライブの詳細情報を表示します。

- 1  キー(**▲▼**)で[1 詳細情報]を選択し **(ENT)** キーを押します。



ドライブの詳細情報が表示されます。

項 目	表示内容
ドライブ	ドライブ名です。
全容量	ドライブの全容量(Byte)を表示します。
空き容量	ドライブの空き容量(Byte)を表示します。
使用容量	ドライブの使用容量(Byte)を表示します。
ファイル総数	ドライブに含まれるファイルの総数を表示します。



ポイント

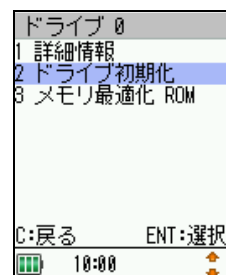
無効容量が増えてきた場合は、「メモリ最適化」を実行してください。

- 2 **(ENT)** キーを押します。

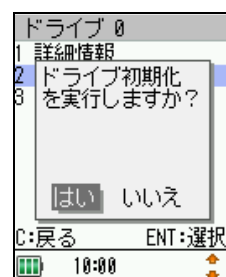
■ドライブの初期化

選択したドライブを初期化します。

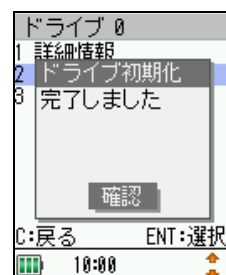
- 1 方向キー(▲▼)で[2 ドライブ初期化]を選択し(ENT)キーを押します。
ドライブを初期化してもよいか確認のメッセージが表示されます。



- 2 [はい] (Yes)を選択し(ENT)キーを押します。
初期化が実行されます。



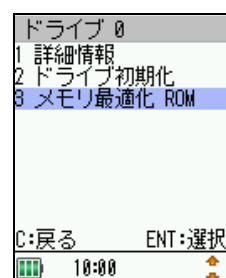
- 3 (ENT)キーを押します。



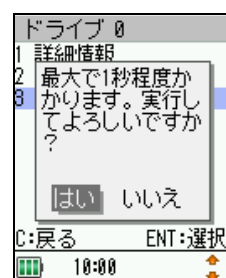
■メモリの最適化

ROM領域(ドライブ0、1、3、4)を最適化します。

- 1 方向キー(▲▼)で[メモリ最適化 ROM]を選択し(ENT)キーを押します。
メモリを最適化してもよいか確認のメッセージが表示されます。



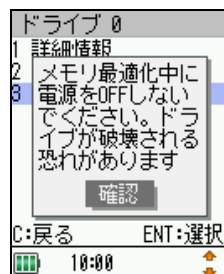
- 2 [はい] (Yes)を選択し(ENT)キーを押します。



- 3** (ENT)キーを押します。
メモリの最適化を実行します。

！ ポイント

- 最適化中に電源を切るとドライブを破壊することがあります。最適化中は絶対に電源を切らないでください。
- メモリの状態により、最適化にかかる時間は変わります。



- 4** (ENT)キーを押します。




(このドライブ)選択中のメニュー

(このドライブ)を選択しているときは、メニューから次の機能が選択できます。

貼り付け  「ファイルの貼り付け」(93ページ)



■ファイルの貼り付け

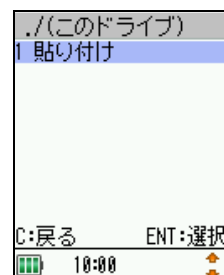
「貼り付け」は、コピーバッファに記憶されている「ファイル」を現在のドライブに貼り付ける機能です。「ファイル」をコピーする方法については、 「ファイルのコピー」(96ページ)を参照してください。

1 「(このドライブ)」を選択し キーを押します。

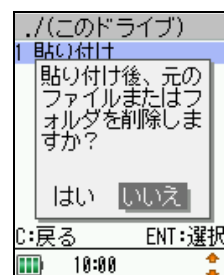
メニューが表示されます。



2 キー(▲▼)で[1 貼り付け]を選択し キーを押します。

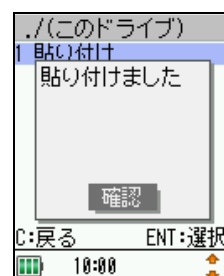


3 元のファイルを削除するかどうか確認画面が表示されますので、[はい]または[いいえ]のどちらかを選択し キーを押します。



4 キーを押します。

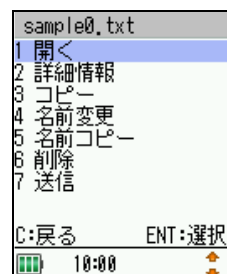
ファイルが貼り付けられます。



ファイル選択中のメニュー

「ファイル」を選択しているときは、次の機能が選択できます。

- 開く …………… 開く「ファイルを開く」(94ページ)
- 詳細情報 ……… 詳細「ファイルの詳細情報表示」(95ページ)
- コピー …………… コピー「ファイルのコピー」(96ページ)
- 名前変更 ……… 名前「ファイルの名前変更」(97ページ)
- 名前コピー ……… 名前「ファイルの名前コピー」(98ページ)
- 削除 …………… 削除「ファイルの削除」(99ページ)
- 送信 …………… 送信「ファイルの送信」(100ページ)



■ファイルを開く

次の拡張子のファイルを開くことができます。

種 類	拡張子
文字	.txt .csv
画像	.jpg .jpeg .jpe .gif .png

1 開きたいファイルを選択し (L) キーを押します。

メニューが表示されます。



2 (L) キー(▲▼)で【1 開く】を選択し (ENT) キーを押します。

ファイルの内容が表示されます。



3 (ENT) キーを押します。



■ファイルの詳細情報表示

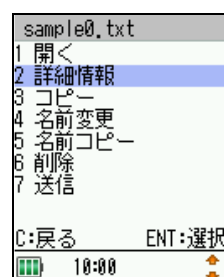
ファイルの詳細情報を表示します。

- 1 詳細情報を表示したいファイルを選択し **(L)** キーを押します。
メニューが表示されます。



- 2 **(C)** キー(▲▼)で[2 詳細情報]を選択し **(ENT)** キーを押します。
ファイルの詳細情報が表示されます。

項 目	表示内容
ファイル名	ファイル名です。
サイズ	ファイルのサイズ(Byte)を表示します。
作成日時	ファイルが作成された日時を表示します。



- 3 **(ENT)** キーを押します。

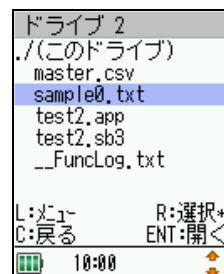


■ファイルのコピー

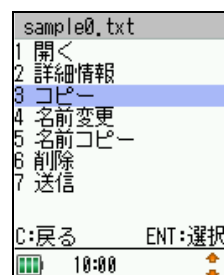
ファイルをコピーバッファに記憶します。

記憶したファイルを他のドライブやフォルダに貼り付ける方法については、「ファイルの貼り付け」(93ページ)を参照してください。

- 1 コピーしたいファイルを選択し **(L)** キーを押します。
メニューが表示されます。



- 2 **(C)** キー(▲▼)で[3 コピー]を選択し **(ENT)** キーを押します。
ファイルがコピーバッファに記憶されます。



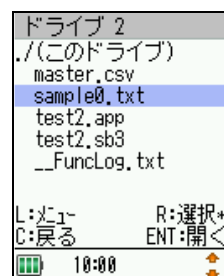
- 3 **(ENT)** キーを押します。



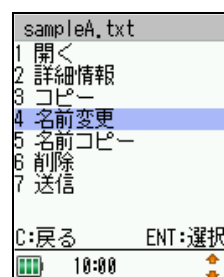
■ファイルの名前変更

ファイル名を変更します。

- 1 ファイル名を変更したいファイルを選択し **(L)** キーを押します。
メニューが表示されます。



- 2 **(F1)** キー(▲▼)で[4 名前変更]を選択し **(ENT)** キーを押します。
ファイルの名前を変更する画面に切り換わります。



- 3 ファイルの名前を変更し **(ENT)** キーを押します。
ファイルの名前が変更されます。

参考

- バーコードを読み取ってファイル名を設定することも可能です。
- 「ファイルの名前コピー」(98 ページ)を実行した場合は、**(F1)**を押すとコピーしたファイル名が貼り付けられます。



- 4 **(ENT)** キーを押します。



■ファイルの名前コピー

ファイルの名前をコピーバッファに記憶します。

□「ファイルの名前変更」(97ページ)でコピーしたファイル名を使用できます。

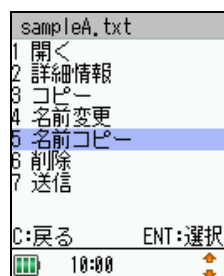
1 コピーしたいファイルを選択し **(L)** キーを押します。

メニューが表示されます。



2 **(C)** キー(▲▼)で[5 名前コピー]を選択し **(ENT)** キーを押します。

ファイル名がコピーバッファに記憶されます。



3 **(ENT)** キーを押します。



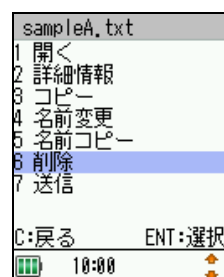
■ファイルの削除

ファイルを削除します。

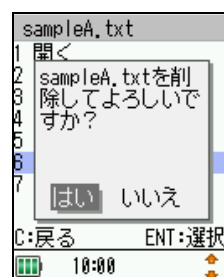
- 1 削除したいファイルを選択し **(L)** キーを押します。
メニューが表示されます。



- 2 **(C)** キー(▲▼)で[6 削除]を選択し **(ENT)** キーを押します。
確認のメッセージが表示されます。



- 3 [はい]を選択し **(ENT)** キーを押します。
削除完了のメッセージが表示されます。



- 4 **(ENT)** キーを押します。



■ファイルの送信

BT-600シリーズからパソコンにファイルを送信します。パソコンでは「データ転送ソフト」を使用してファイルを受信します。

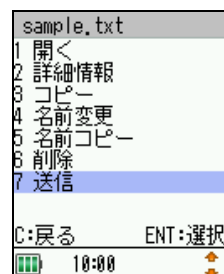
！ ポイント

指定したファイルを別のBT-600シリーズに送信したい場合は、下記手順3の[2 使用ポート]で「赤外線通信」を使用します。

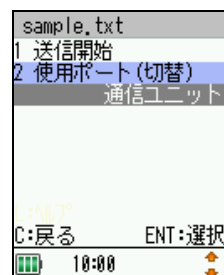
- 1 送信したいファイルを選択し **(L)** キーを押します。
メニューが表示されます。



- 2 **(C)** キー(▲▼)で[7 送信]を選択し **(ENT)** キーを押します。
送信設定画面が表示されます。



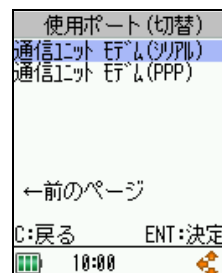
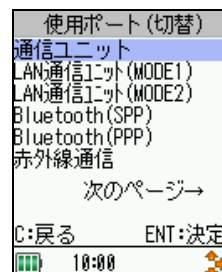
- 3 **(C)** キー(▼)で[2 使用ポート(切替)]を選択し **(ENT)** キーを押します。
通信ポートを選択するメニューが表示されます。



4 通信に使用するポートを選択し、**[ENT]**キーを押します。

次のポートが使用できます。

- 通信ユニットBT-UC6U/UC6Rを使用する場合
「通信ユニット」を選択します。
- LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE1)を使用する場合
「LAN通信ユニット(MODE1)」を選択します。
- LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE2)を使用する場合
「LAN通信ユニット(MODE2)」を選択します。
- Bluetooth(SPP)を使用する場合
「Bluetooth(SPP)」を選択します。
- Bluetooth携帯電話経由のダイヤルアップ接続の場合
「Bluetooth(PPP)」を選択します。
- 赤外線を使用する場合
「赤外線通信」を選択します。
- 通信ユニット経由のアナログモデムBT-MD1(シリアル接続)の場合
「通信ユニット モデム(シリアル)」を選択します。
- 通信ユニット経由のアナログモデムBT-MD1(PPP接続)の場合
「通信ユニット モデム(PPP)」を選択します。



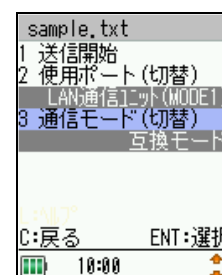
ポイント

- 使用ポート(切替)は2画面あります。**[◀▶]**キーで画面を切り替えてください。
- Bluetooth携帯電話経由のダイヤルアップ接続、Bluetooth (SPP)、アナログモデムBT-MD1(PPP接続)、アナログモデムBT-MD1(シリアル接続)の場合、必要な機器、設定、環境が必要です。
- Bluetoothは、BT-600Bのみ搭載されています。
- BT-500シリーズのBT-UC5U/UC5L/UC5Rの通信ユニットと通信する場合、「通信ユニット」を選択します。

5 「2 使用ポート(切替)」で「LAN通信ユニット(MODE1)」「Bluetooth(PPP)」「通信ユニット モデム(PPP)」を選択した場合、「3 通信モード(切替)」の選択項目が表示されます。「互換モード」で使用してください。

ポイント

「3 通信モード(切替)」で「パッシブモード」を選択した場合は、データ転送ソフトの「詳細設定」を「パッシブモードで待ち受ける」に設定してください。





6 送信先がパソコンの場合は、パソコンで「データ転送ソフト」を起動して、ファイル受信待ち受け状態にします。

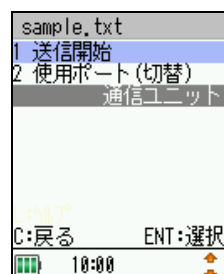
データ転送ソフトの操作方法については、**[📖]**『データ転送ソフト 操作マニュアル』を参照してください。


7 通信できるように機器を準備します。

通信待ち受けの状態にする方法については、**[📖]**『BT-Navigator アプリケーション開発マニュアル』「第7章 ファイルの送信」-「機器の準備」を参照してください。

使用ポートが[赤外線通信]の場合は、BT-600シリーズ底面(赤外線通信部)が向かい合うようにしてセットします。

- 8  キーで [1 送信開始] を選択し、 キーを押します。
送信が開始されます。



- 9  キーを押します。



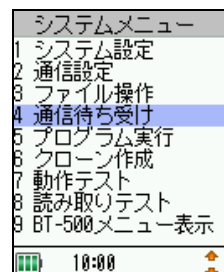
4 通信待ち受け

「データ転送ソフト」や「BT アプリケーションビルダ」を使用してパソコンから送信したファイルを BT-600シリーズで受信します。

通信待ち受け

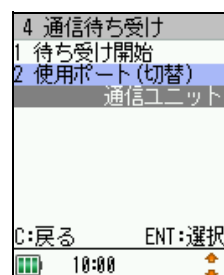
- 1 ○キーで[4 通信待ち受け]を選択し、(ENT)キーを押します。

通信待ち受け画面が表示されます。



- 2 [2 使用ポート(切替)]選択し(ENT)キーを押します。

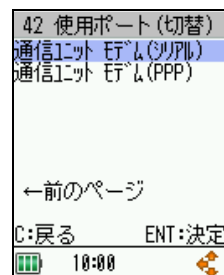
通信ポートを選択するメニューが表示されます。



- 3 通信に使用するポートを選択し、(ENT)キーを押します。

次のポートが使用できます。

- 通信ユニットBT-UC6U/UC6Rを使用する場合
「通信ユニット」を選択します。
- LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE1)を使用する場合
「LAN通信ユニット(MODE1)」を選択します。
- LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE2)を使用する場合
「LAN通信ユニット(MODE2)」を選択します。
- Bluetooth(SPP)を使用する場合
「Bluetooth(SPP)」を選択します。
- Bluetooth携帯電話経由のダイヤルアップ接続の場合
「Bluetooth(PPP)」を選択します。
- 赤外線を使用する場合
「赤外線通信」を選択します。
- 通信ユニット経由のアナログモデムBT-MD1(シリアル接続)の場合
「通信ユニット モデム(シリアル)」を選択します。
- 通信ユニット経由のアナログモデムBT-MD1(PPP接続)の場合
「通信ユニット モデム(PPP)」を選択します。



！ ポイント

- 使用ポート(切替)は2画面あります。○キー(◀▶)で画面を切り替えてください。
- Bluetooth携帯電話経由のダイヤルアップ接続、Bluetooth(SPP)、アナログモデムBT-MD1(PPP接続)、アナログモデムBT-MD1(シリアル接続)の場合、必要な機器、設定、環境が必要です。
- Bluetoothは、BT-600Bのみ搭載されています。
- BT-500シリーズのBT-UC5U/UC5L/UC5Rの通信ユニットと通信する場合、「通信ユニット」を選択します。

4 通信の相手がパソコンの場合は、パソコンで「データ転送ソフト」や「BTアプリケーションビルダ」を起動して、ファイルが送信できる状態にします。

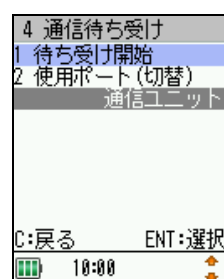
データ転送ソフトの操作方法については、『データ転送ソフト 操作マニュアル』を参照してください。
BTアプリケーションビルダのファイル送信の操作方法については、『BT-Navigator アプリケーション開発マニュアル』「7章 ファイル送信」を参照してください。

5 通信できるように機器を準備します。

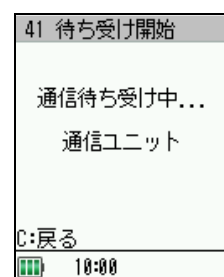
通信待ち受けの状態にする方法については、『BT-Navigator アプリケーション開発マニュアル』「7章 ファイル送信」-「機器の準備」を参照してください。

使用ポートが[赤外線通信]の場合は、BT-600シリーズ底面(赤外線通信部)が向かい合うようにしてセットします。

6 キーで【1 待ち受け開始】を選択し、キーを押します。



待ち受け状態になります。無通信状態が 30 秒続くと、通信待ち受け状態は解除されます。



7 通信の相手側で、ファイルの送信を実行します。

ファイル転送中は、通信状況が表示されます。
転送が終了すると、待ち受け状態に戻ります。

8 キーを押すと【通信待ち受け】に戻ります。



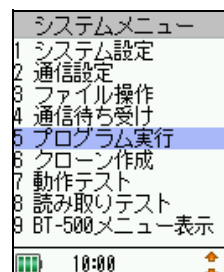
5 プログラム実行

端末アプリケーションを実行します。

プログラム実行

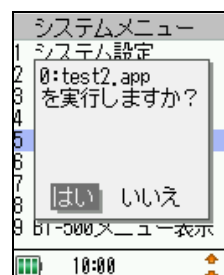
- 1 ○キーで[5 プログラム実行]を選択し、(ENT)キーを押します。

確認のメッセージが表示されます。



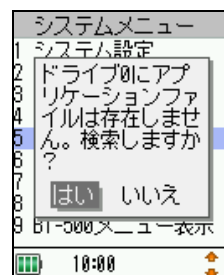
- 2 表示されたファイルを実行する場合は、[はい]を選択し(ENT)キーを押します。

表示されたアプリケーションが実行されます。



- 3 実行したいファイルが、表示されたファイルと異なる場合は、[いいえ]を選択し(ENT)キーを押します。

- 4 アプリケーションを検索する場合は、[はい]を選択し(ENT)キーを押します。
アプリケーションを検索します。



- 5 ○キー(▲▼)で実行するプログラムを選択し、(ENT)キーを押します。

確認のメッセージが表示されます。

- 6 [はい]を選択し(ENT)キーを押します。

選択したアプリケーションが実行されます。



ポイント

BT-H10Wで開発の場合、システムソフト(BTNavKapl.app)がBT-600シリーズのローカルドライブに存在すれば、アプリケーションの検索で、スクリプトファイル(.sb3)の検索・プログラム実行が可能です。

あるBT-600シリーズと同じシステム設定、同じファイル構成のBT-600シリーズ(クローン)を作成します。

クローン作成

クローン作成には赤外線通信を使用します。

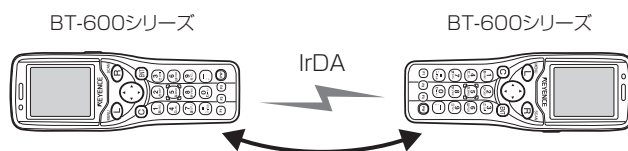
ポイント

📖「日付／時刻」(11ページ)と📖「設定保存」(42ページ)の設定情報は、クローン作成の対象外です。

注意

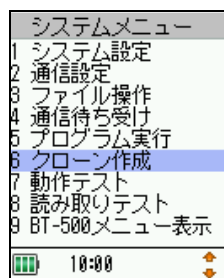
BT-600 シリーズ以外とはクローン作成できません。

クローンの作成

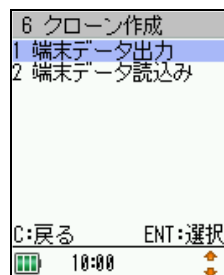


■データ出力側の操作

- 1 🕒キーで[6 クローン作成]を選択し、
ENTキーを押します。

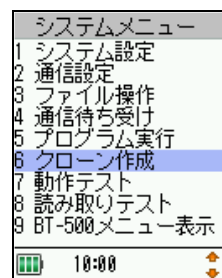


- 2 🕒キー(▲▼)で[1 端末データ出力]を選択し、
ENTキーを押します。

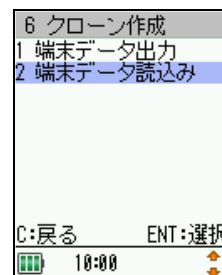


■データ読み込み側の操作

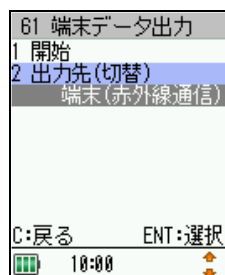
- 1 🕒キーで[6 クローン作成]を選択し、
ENTキーを押します。



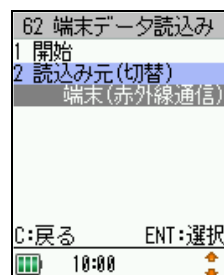
- 2 🕒キー(▲▼)で[2 端末データ読み込み]を選択し、
ENTキーを押します。



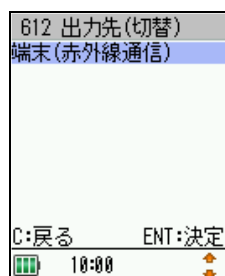
- 3 時計キー(▲▼)で[2 出力先(切替)]を選択し
ENTキーを押します。



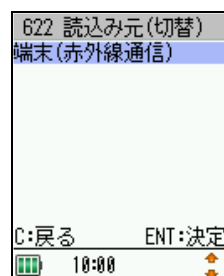
- 3 時計キー(▲▼)で[2 読み込み元(切替)]を選択し
ENTキーを押します。



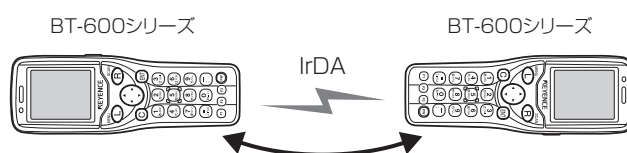
- 4 時計キー(▲▼)で[端末(赤外線通信)]を選択し、
ENTキーを押します。



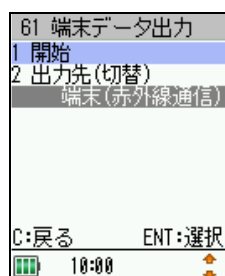
- 4 時計キー(▲▼)で[端末(赤外線通信)]を選択し、
ENTキーを押します。



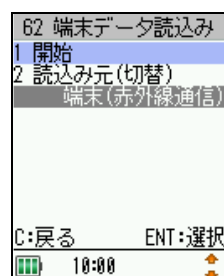
- 5 下図のように、BT-600シリーズの底面を向かい合わせにします。



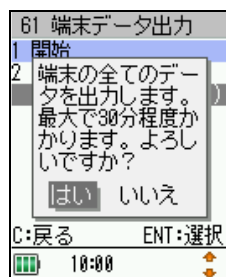
- 6 時計キー(▲▼)で[1 開始]を選択しENTキー
を押します。



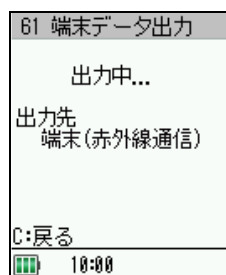
- 6 時計キー(▲▼)で[1 開始]を選択しENTキー
を押します。



7 [はい]を選択し[ENT]キーを押します。



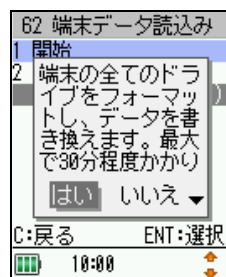
データ出力を開始します。
データ読み込み側に接続すると、データ送信画面に変わります。



データ出力に成功すると「端末データ出力が完了しました」と表示されます。

8 [ENT]キーを押します。
[端末データ出力]メニューに戻ります。

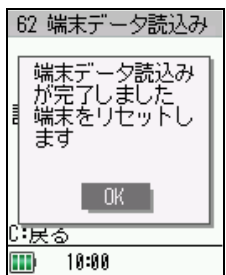
7 [はい]を選択し[ENT]キーを押します。



データ読み込みを開始します。
データ送信側と接続すると、データ受信画面に変わります。





データ読み込みに成功すると「端末データ読み込みが完了しました。端末をリセットします」と表示されます。



8 [ENT]キーを押すと、リセットされます。

7 動作テスト

BT-600シリーズの各部の動作テストをおこないます。



- 1  キーで【7 動作テスト】を選択し、 キーを押します。





通信テスト

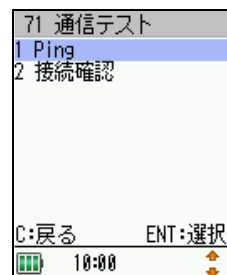
Ping

指定したIPアドレスの機器にPingを送信し、応答を確認できます。
また、パソコンなどから送信されたPingを受信することもできます。

- 1  キーで【1 通信テスト】を選択し、 キーを押します。



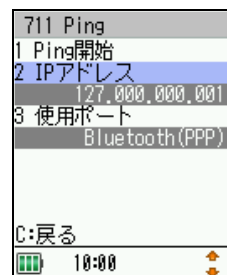
- 2  キーで【1 Ping】を選択し、 キーを押します。



- 3 【2 IPアドレス】を選択し、 キーを押します。

ホストIPのIPアドレスが初期表示されます。

 「ホストIP」(53ページ)



4 IPアドレスを設定します。数値を入力します。

○キー(◀▶)または○キーを押すと、区切り単位で移動します。

項目	設定範囲
IPアドレス	***.***.***.*** (0.0.0.1~255.255.255.254)

例 192.168.10.1と入力する場合には、次のように入力します。

①⑨②①⑥⑧①⑦①

5 ENTキーを押します。

設定したIPアドレスに変更されます。

○キーを押すと、設定を変更しないで[Ping]メニューに戻ります。

6 [3 使用ポート]を選択し、ENTキーを押します。

通信ポートを選択するメニューが表示されます。

7 通信に使用するポートを選択し、ENTキーを押します。

次のポートが使用できます。

- LAN通信ユニットを使用する場合
「LAN通信ユニット(MODE1)」を選択します。

参考

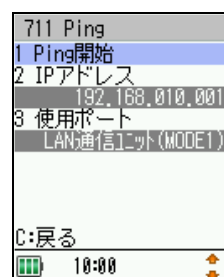
- Bluetooth 搭載携帯電話、アナログモデム BT-MD1 経由で PPP接続後、Ping送信する場合は、「Bluetooth (PPP)」「通信ユニット モデム (PPP)」を選択します。
使用する場合は、必要な機器、設定、接続環境が必要です。
- Bluetoothは、BT-600Bのみ搭載されています。

8 ○キーで[1 Ping開始]を選択し、ENTキーを押します。

Pingが送信され、結果が表示されます。


ポイント

- Pingは4回送信されます。送信結果が全てOK.になることを確認してください。
- 送信結果は、10ms単位の測定になります(最小10ms)。





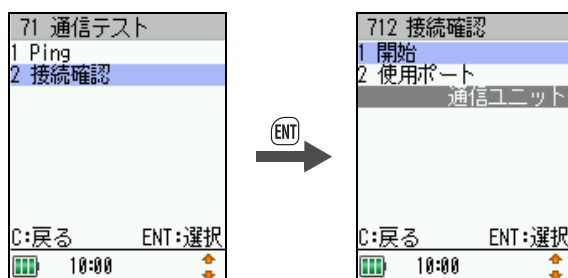
接続確認

使用ポートを指定して、「データ転送ソフト」との接続確認をおこないます。

データ転送ソフトの操作方法については、『データ転送ソフト 操作マニュアル』を参照してください。

- データ転送ソフトで「無線端末・LAN通信ユニット・PPP」に登録した機器との接続確認
以下の通信経路での接続確認をおこないます。
 - ・LAN通信ユニット BT-UC6L (MODE1)
 - ・Bluetooth携帯電話経由でのダイヤルアップ接続
 - ・アナログモデム BT-MD1 (PPP接続)
- データ転送ソフトで「通信ユニット・シリアル」に登録した機器との接続確認
以下の通信経路での接続確認をおこないます。
 - ・通信ユニット
 - ・LAN通信ユニット BT-UC6L (MODE2)
 - ・Bluetooth(SPP)
 - ・アナログモデム BT-MD1 (シリアル接続)

1  キーで【2 接続確認】を選択し、 キーを押します。



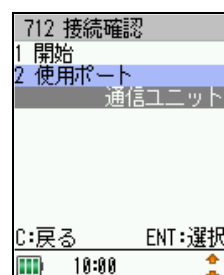
「LAN通信ユニット・PPP」に登録した機器との接続確認

「データ転送ソフト」を使用して、パソコンとBT-600シリーズ間の、以下の経路での接続を確認します。

- LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE1)
- Bluetooth携帯電話経由でのダイヤルアップ接続
- アナログモデムBT-MD1(PPP接続)

接続できたBT-600シリーズの画面上にIPアドレスを表示します。

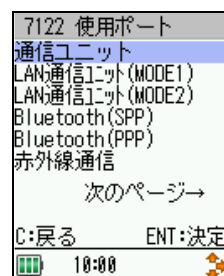
- 1 キーで[2 使用ポート]を選択し、 キーを押します。



- 2 通信に使用するポートを選択し、 キーを押します。

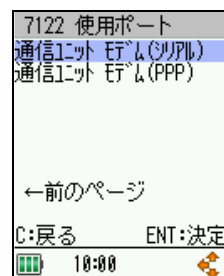
次のポートが使用できます。

- LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE1)を使用する場合
「LAN通信ユニット(MODE1)」を選択します。
- Bluetooth携帯電話経由のダイヤルアップ接続の場合
「Bluetooth(PPP)」を選択します。
- 通信ユニット経由のアナログモデムBT-MD1(PPP接続)の場合
「通信ユニット モデム(PPP)」を選択します。



ポイント

- 使用ポート(切替)は2画面あります。 キー(◀▶)で画面を切り替えてください。
- Bluetooth 携帯電話経由のダイヤルアップ接続、アナログモデムBT-MD1(PPP接続)の場合、必要な機器、設定、環境が必要です。
- Bluetoothは、BT-600Bのみ搭載されています。



- 3 通信できるように機器を準備します。

通信できるように準備する方法については、 『BT-Navigator アプリケーション開発マニュアル』「機器の準備」を参照してください。

- 4 キーで[1 開始]を選択し、 キーを押します。

接続確認を開始します。



BT-600シリーズは、接続確認中となります。



5 データ転送ソフトを起動します。

6 (システム設定)ボタンをクリックします。

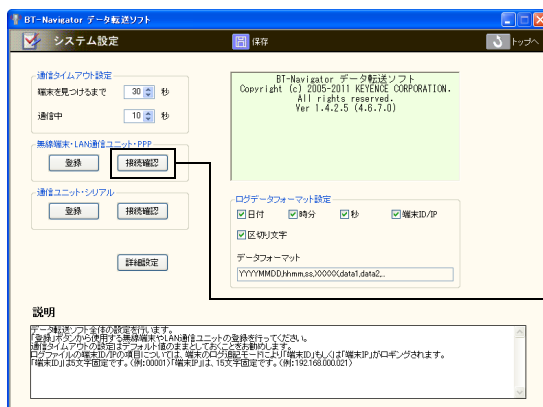


(システム設定)ボタンをクリックします。

7 [無線端末]の[接続確認]ボタンをクリックします。

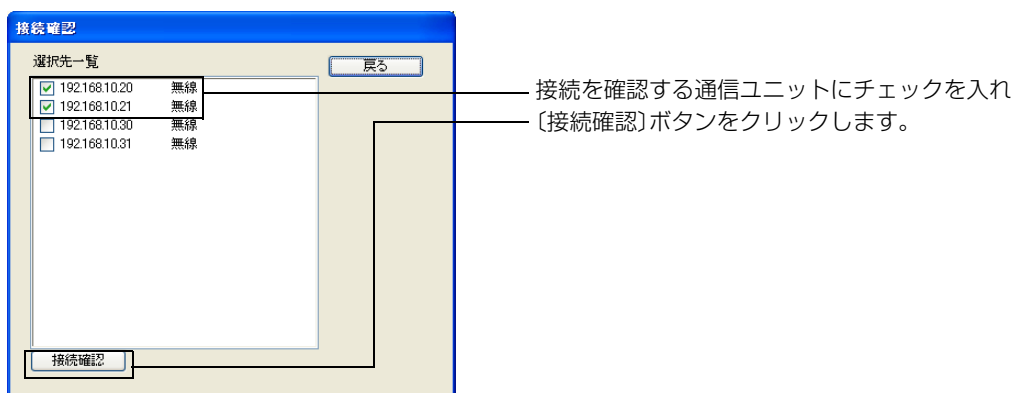
事前に「無線端末・LAN接続ユニット・PPP」の〔登録〕ボタンをクリックし、接続機器のIPアドレスを登録することが必要です。

☐『データ転送ソフト 操作マニュアル』「5 システム設定」-「接続先の登録と接続確認」



[無線端末・LAN 通信ユニット・PPP] の
[接続確認]をクリックします。

8 選択先一覧から、接続を確認する通信ユニットにチェックを入れ、[接続確認]ボタンをクリックします。



9 パソコンと接続が確立されると、BT-600シリーズの画面に接続先パソコンのIPアドレスが表示されます。

同時にブザーとバイブレータでも通知します。

ブザー: 0.5秒鳴動、0.5秒停止を3回繰り返します。

バイブレータ: 0.5秒振動、0.5秒停止を3回繰り返します。

データ通信ソフトでは、「OK」と表示されます。



10 (ENT)キーを押します。

[接続確認]メニューに戻ります。

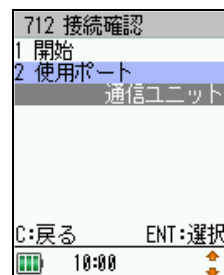
通信ユニット・シリアルを使用した接続確認

「データ転送ソフト」を使用して、パソコンとBT-600シリーズ間の以下の経路での接続を確認します。接続できたBT-600シリーズの画面上に通信ユニットの通信ポート番号を表示します。

- 通信ユニット
- LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE2)
- Bluetooth(SPP)
- アナログモデム BT-MD1(シリアル接続)

「データ転送ソフト」については、『データ転送ソフト 操作マニュアル』を参照してください。

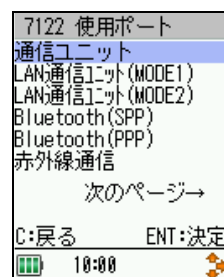
1 キーで[2 使用ポート]を選択し、キーを押します。



2 通信に使用するポートを選択し、キーを押します。

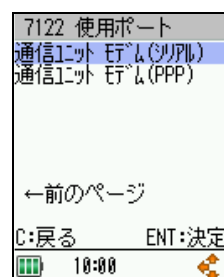
次のポートが使用できます。

- **通信ユニットを使用する場合**
「通信ユニット」を選択します。
- **LAN通信ユニットBT-UC6L(MODE2)を使用する場合**
「LAN通信ユニット(MODE2)」を選択します。
- **Bluetooth(SPP)を使用する場合**
「Bluetooth(SPP)」を選択します。
- **通信ユニット経由のアナログモデムBT-MD1(シリアル接続)の場合**
「通信ユニット モデム(シリアル)」を選択します。



ポイント

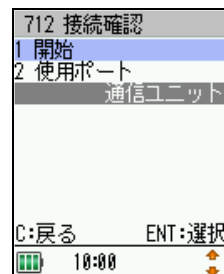
- 使用ポート(切替)は 2 画面あります。キー(◀▶)で画面を切り替えてください。
- Bluetooth (SPP)、アナログモデムBT-MD1(シリアル接続)の場合、必要な機器、設定、環境が必要です。
- Bluetoothは、BT-600Bのみ搭載されています。



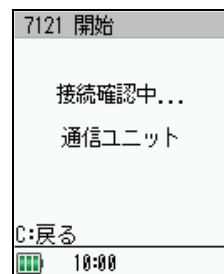
3 通信ユニットを使用して通信する場合は、BT-600シリーズを通信ユニットにセットします。



4 キーで〔開始〕を選択し、 キーを押します。



BT-600シリーズは接続確認中になります。



5 データ転送ソフトを起動します。

6 〔システム設定〕ボタンをクリックします。

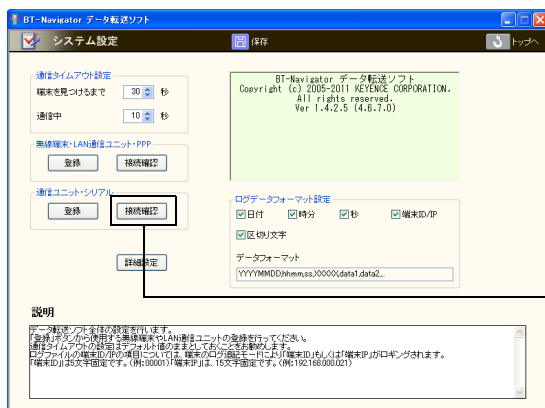


(システム設定)ボタンをクリックします。

7 〔通信ユニット〕の〔接続確認〕ボタンをクリックします。

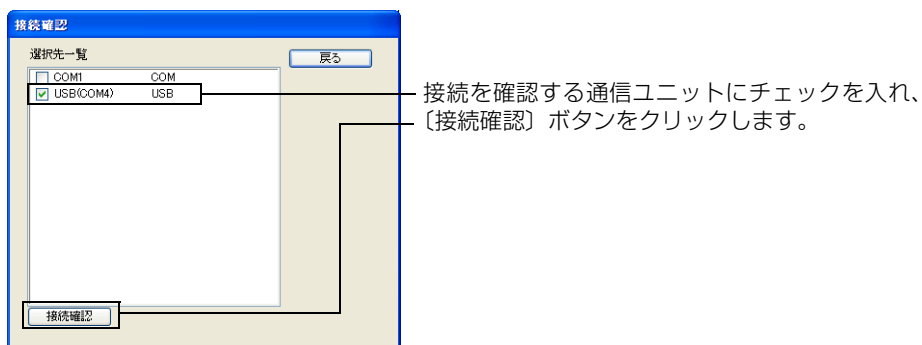
事前に「通信ユニット・シリアル」の〔登録〕ボタンをクリックし、通信ポートの更新が必要です。

📖『データ転送ソフト 操作マニュアル』「5 システム設定」-「接続先の登録と接続確認」



[通信ユニット・シリアル]の
〔接続確認〕ボタンをクリックします。

8 選択先一覧から、接続を確認する通信ユニットにチェックを入れ、[接続確認]ボタンをクリックします。



9 パソコンと接続が確立されると、BT-600シリーズの画面に接続先のパソコンのポート番号が表示されます。

同時にブザーとバイブレータでも通知します。

ブザー: 0.5秒鳴動、0.5秒停止を3回繰り返します。




バイブレータ: 0.5秒振動、0.5秒停止を3回繰り返します。

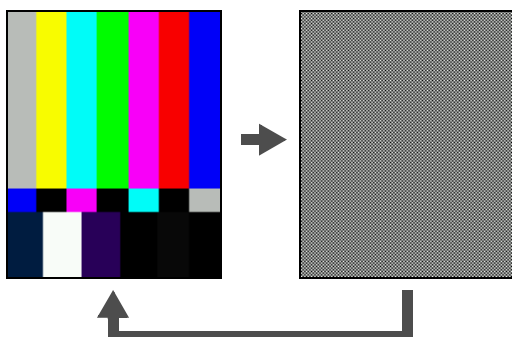
データ通信ソフトでは、「OK」と表示されます。






10 **ENT**キーを押します。 [接続確認]メニューに戻ります。

LCD



- 1  キーで[2 LCD]を選択し、 キーを押します。
 キーを押すと、画面が切り替わります。



7 動作テスト	
1 通信テスト	
2 LCD	
3 LED	
4 ブザー	
5 バイブレータ	
6 バックライト	
7 キー	
8 メモリテスト	
C:戻る	ENT:選択
 10:00	

- 2  キーを押します。
 [動作テスト]メニューに戻ります。


LED


- 1  キーで[3 LED]を選択し、 キーを押します。
 動作確認LEDが、以下の①～③の動作を繰り返します。
 何かキーを押すと次の表示に切り替わります。

- ① 緑点灯 → 消灯を3回繰り返します。
 ② 赤点灯 → 消灯を3回繰り返します。
 ③ 橙点灯 → 消灯を3回繰り返します。



動作確認LED

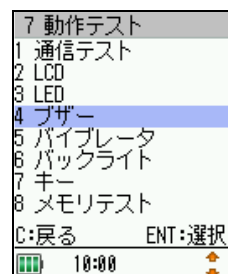



7 動作テスト	
1 通信テスト	
2 LCD	
3 LED	
4 ブザー	
5 バイブレータ	
6 バックライト	
7 キー	
8 メモリテスト	
C:戻る	ENT:選択
 10:00	

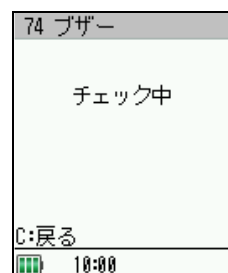
- 2  キーを押します。
 [動作テスト]メニューに戻ります。

ブザー



- 1  キーで[4 ブザー]を選択し、 キーを押します。
ブザーが鳴ります。

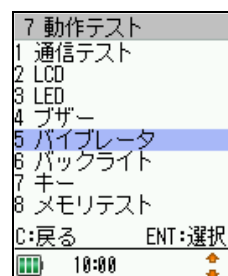



- 2  キーを押します。
[動作テスト]メニューに戻ります。

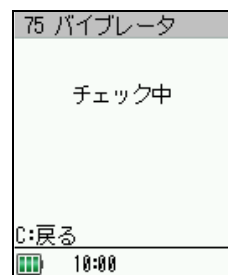


バイブレータ

- 1  キーで[5 バイブレータ]を選択し、 キーを押します。
振動と停止を繰り返します。



- 2  キーを押します。
[動作テスト]メニューに戻ります。



バックライト

- 1 ○キーで[6 バックライト]を選択し、(ENT)キーを押します。

5種類の画面が切り替わります。

7 動作テスト	
1	通信テスト
2	LCD
3	LED
4	ブザー
5	バイブレータ
6	バックライト
7	キー
8	メモリテスト
C:戻る ENT:選択	
100	10:00



- 2 (C)キーを押します。

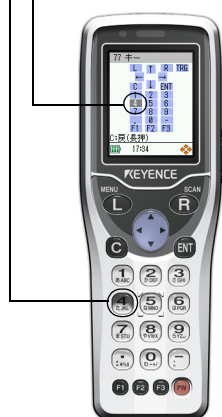
[動作テスト]メニューに戻ります。

キー

- 1 ○キーで[6 キー]を選択し、(ENT)キーを押します。

押したキーを反転表示します。再度キーを押すと元に戻ります。

キーを押すと、
対応する表示部分が反転します。





7 動作テスト	
1	通信テスト
2	LCD
3	LED
4	ブザー
5	バイブレータ
6	バックライト
7	キー
8	メモリテスト
C:戻る ENT:選択	
100	10:00

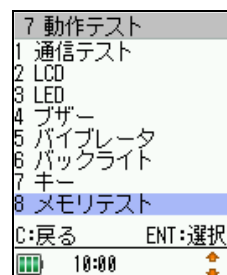
- 2 (C)キーを長押しします。

[動作テスト]メニューに戻ります。

メモリテスト

メモリ (FROM) へ正しくアクセスできるかどうかテストします。

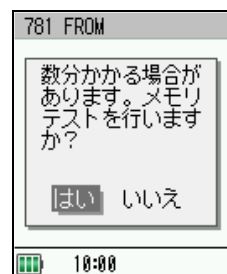
- 1  キーで [8 メモリテスト] を選択し、 キーを押します。



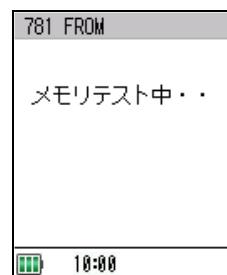
- 2  キーで [1 FROM] を選択し、 キーを押します。




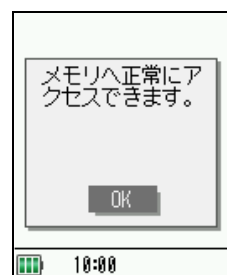
- 3 [はい] を選択し、 キーを押します。



メモリテストを開始します。

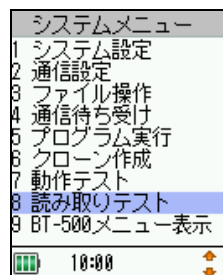


- 4  キーを押します。
[メモリテスト]メニューに戻ります。



読み取ったバーコードの種類、桁数、内容を表示し、読み取りテストします。

- 1 キーで[8 読み取りテスト]を選択し、 キーを押します。



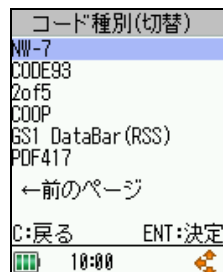
- 2 バーコードの種類を切り替える場合は、 キーを押します。



- 3 キー(▲▼)で、バーコードの種類を選択し、 キーを押します。
「ALL」を選択すると、バーコードを自動判別します。

参考

- 「コード種類(切替)」は、2 画面あります。 キー(「◀」、「▶」)で画面を切り替えてください。
- 手順2の画面で キー(「◀」、「▶」)を押しても、バーコードの種類の変更が可能です。



- 4 トリガキーを押して、バーコードを読み取ります。

読み取ったバーコードの種類が表示されます。

読み取ったバーコードの桁数が表示されます。

読み取ったバーコードの内容が表示されます。



- 5 キーを押します。

システムメニューに戻ります。

ポイント

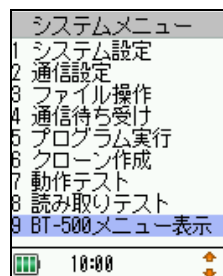
バーコード読み取り後、F1 キーを押すと 16 進表記になります。

BT-500シリーズと同じ構成のシステムメニューを表示します。

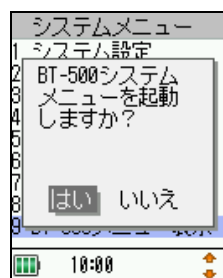
ポイント

- BT-600シリーズで新たに追加された機能の設定はできません。
- BT-600シリーズで対応していない機能の設定はできません。

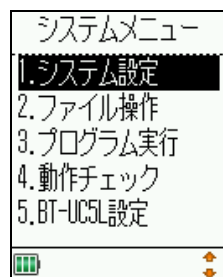
1 キーで[9 BT-500メニュー表示]を選択し、 キーを押します。



2 [はい]を選択し、 キーを押します。

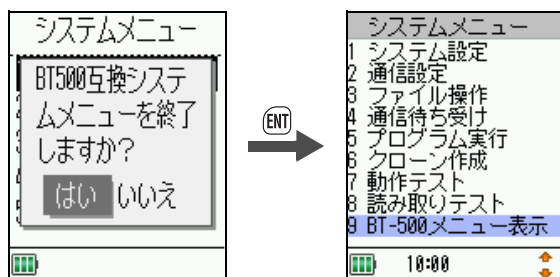


BT-500シリーズと同じ構成のシステムメニューを表示します。



参考

BT-600シリーズの[システムメニュー]に戻るには、BT-500シリーズの[システムメニュー]画面で、 キーを押します。



[はい]を選択し、 キーを押すとBT-600シリーズの[システムメニュー]に戻ります。

！ ポイント

- [9 BT-500メニュー表示]を選択して、BT-600シリーズのシステムメニューに戻らなかった場合、次回のシステムメニューは、BT-500システムメニューが起動します。
 - BT-500 のシステムメニューについては、BT-500 シリーズのマニュアルをご確認ください。
-

付録

著作権表示と索引を記載しています。

1 索引	付-2
------------	-----

本書で使用している用語の索引です。アルファベット、五十音順にならんでいます。

英数

BT-500メニュー表示	123
LAN通信ユニット	75
BT-UC6L書き込み	76
設定前の準備	75
ネットワーク設定を初期状態に戻す	85
ネットワーク設定を読み出す	84

か

クローン作成	106
赤外線通信(端末のIrDA通信)	106

さ

システム設定	10
デバイス設定	10
一覧	7
操作方法	5
システムメニューツリー	2

た

端末設定	52
通信設定	52
Bluetooth	56
ダイヤルアップ	62
接続確認	111
通信待ち受け	103
キー入力音設定	12
言語切り替え	45
デバッグ出力設定	14
バージョン表示	17
読み取り余裕度設定	13
動作テスト	109
LCD	118
LED	118
キー	120
バイプレータ	119
バックライト	120
プザー	119
メモリテスト	121

な

ネットワーク設定を自動的に取得する	80
-------------------	----

は

ファイル操作(システムメニュー)	88
ドライブの詳細情報表示	90
ドライブの初期化	91
ドライブの選択と移動	89
ファイルのコピー	96
ファイルの削除	99
ファイルの詳細情報表示	95
ファイルの送信	100
ファイルの名前変更	97
ファイルの貼り付け	93
ファイルの複数選択	89
ファイルを開く	94
フォルダの複数選択	89
メニューの操作	88
プログラム実行	9, 105

や

読み取りテスト	122
---------	-----

MEMO

改訂履歴

印刷年月日	版 数	改 訂 内 容
2011年12月	初 版	

保証について

1. 対象製品

以下に規定する保証は、当社が製造・販売する製品(以下「対象製品」という)に適用します。
なお、対象製品に内蔵されているリレーや電池などの消耗品は対象外とさせていただきます。

2. 保証期間

対象製品の保証期間は、貴社のご指定場所に納入後1年間とします。

3. 保証範囲

- (1) 上記保証期間内に当社の責任による故障が発生した場合は、無償での代替品との交換または修理をさせていただきます。但し、保証期間内であっても、次に該当する故障の場合は保証対象外とさせていただきます。なお、代替品との交換または修理を行なった場合でも保証期間の起算日は対象製品の当初ご納入日とさせていただきます。
- ① 取扱説明書、ユーザーズマニュアル、別途取り交わした仕様書などに記載された以外の不適当な条件・環境・取り扱い・使用方法に起因した故障。
 - ② お客様の装置または、ソフトウェアの設計内容など、対象製品以外に起因した故障。
 - ③ 当社以外による改造、修理に起因した故障。
 - ④ 取扱説明書、ユーザーズマニュアルなどに記載している消耗部品が正しく保守、交換されていれば、防止できたと確認できる故障。
 - ⑤ 当社出荷時の科学・技術水準では、予見が不可能だった事由による故障。
 - ⑥ その他、火災、地震、水害などの災害及び電圧異常など当社の責任ではない外部要因による故障。
- (2) 保証範囲は上記(1)を限度とし、対象製品の故障に起因するお客様での二次損害(装置の損傷、機会損失、逸失利益等)及びいかなる損害も保証の対象外とさせていただきます。

4. 適用用途

当社製品は、一般工業向けの汎用品として設計・製造されております。
従いまして、下記のような用途での使用は意図しておりませんので適用外とさせていただきます。
ただし、事前に当社までご相談いただき、お客様の責任において製品の仕様をご確認のうえ、定格・性能に対してご了承ください、必要な安全対策を講じていただく場合は適用可能とさせていただきます。
なお、この場合においても保証範囲は上記と同様といたします。

- ① 原子力発電、航空、鉄道、船舶、車両、医療機器等の人命や財産に多大な影響が予想される設備
- ② 電気、ガス、水道等の公共設備
- ③ 屋外での使用および、それに準ずる取扱説明書などで規定していない条件・環境での使用
- ④ 上記①及び②に準じる安全に関して高度な配慮と注意が要求される用途

全商品、送料無料で

当日出荷

必要な時に、必要な量だけ

在庫不要でトータルコストを削減

■ お問い合わせ **0120-267-911**

最寄りの担当営業所に直接つながります。

■ 情報サービス www.keyence.co.jp

カタログ、取扱説明書、マニュアル、CADデータ等をダウンロードできます。

■ 輸出書類サービス www.keyence.co.jp/yushutsu

輸出に必要な書類をその場でダウンロードできます。

株式会社 キーエンス

本社・研究所／自動認識事業部

〒533-8555 大阪市東淀川区東中島1-3-14

仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

自動2-1030

Copyright© 2011 KEYENCE CORPORATION.
All rights reserved.

1121-1 136170